聖隷福祉事業団

聖隷浜松病院内科専門研修プログラム

2026 年版

目次

	頁
専門医プログラム要旨	3
内科研修プログラム	
1.理念・使命・特性	4
2.募集専攻医数	7
3.専門知識・専門技能とは	8
4.専門知識・専門技能の習得計画	8
5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス	11
6.リサーチマインドの養成計画	11
7.学術活動に関する研修計画	12
8.コア・コンピテンシーの研修計画	12
9.地域医療における施設群の役割	12
10.地域医療に関する研修計画	14
11.内科専攻医研修＜(1)内科総合コース（●Hospitalist コース　●内科地域医療コース ●内科老年医療コース）(2)内科 Subspecialist コース（●内科 Subspecialist コース）＞	14
12.専攻医の評価時期と方法	19
13.専門研修管理委員会の運営計画	21
14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画	21
15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）	21
16.内科専門研修プログラムの改善方法	22
17.専攻医の募集および採用の方法	23
18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件	23
資料１　聖隷浜松病院内科専門研修施設群	24
(1)専門研修基幹施設　聖隷浜松病院	28
(2)専門研修連携施設	
1）聖隷三方原病院	31
2) JA 静岡厚生連遠州病院	34
3）浜松医科大学	36
4）手稲渓仁会病院	38
5）国立循環器病研究センター	40
6）一宮西病院	42
7）中東遠総合医療センター	44
8）静岡赤十字病院	46
9）大垣市民病院	48
10）麻生飯塚病院	51
11）京都第二赤十字病院	54
12）湘南鎌倉総合病院	56
13）東京都立多摩総合医療センター	59
14）仙台厚生病院	61
15）聖路加国際病院	64
16）東京都健康長寿医療センター	66
(3) 専門研修特別連携施設	
1）浜松市リハビリテーション病院	69
2）袋井市立聖隷袋井市民病院	70
3）聖隷富士病院	71
4）北斗わかば病院	72

頁
5）浜松市国民健康保険佐久間病院 73
6）坂の上ファミリークリニック/坂の上在宅医療支援医院 74

資料２　聖隷浜松病院研修プログラム管理委員会・研修管理委員会・指導医名一覧
別表１　聖隷浜松病院内科専門研修「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」各年次到達目標
別表２　聖隷浜松病院内科専門研修　週間スケジュール（例：総合診療内科）

専門医プログラム要旨

・専攻医の募集定員数　　８名/年

・連携施設：聖隷三方原病院/遠州病院/浜松医科大学/手稲渓仁会病院/静岡赤十字病院/大垣市民病院/中東遠総合医療ｾﾝﾀｰ/国立循環器病研究ｾﾝﾀｰ/一宮西病院/麻生飯塚病院/京都第二赤十字病院/仙台厚生病院/東京都立多摩総合医療センター/湘南鎌倉総合病院/聖路加国際病院/東京都健康長寿医療センター

（注：一宮西病院は６ヶ月間）

・特別連携施設：浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院/聖隷袋井市民病院/聖隷富士病院/北斗わかば病院/佐久間病院/坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ　　※連携施設・特別連携施設ともに近隣で行えます

・ローテート研修で症例を集積し，その後に選択科やサブスペシャルティ研修を行います

・指導医も多く，サブスペシャルティ研修の選択肢も豊富です

・専攻医の希望に合わせやすく，個々の専攻医のスキルアップの選択肢も豊富です

各コースのイメージ(A パターン：基幹病院を最初１年間　B パターン：連携病院を最初１年間
C パターン：基幹病院を最初６ヶ月)

●Hospitalist コース

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 9 科ローテート研修 9 ヶ月＋選択科 3 ヶ月											
	外来診療											
2 年次	連携施設(＋特別連携施設)											
3 年次	選択科/連携施設/特別連携施設のいずれかを 3 ヶ月ずつ 4 期間											

●地域医療コース

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 9 科ローテート研修 9 ヶ月＋選択科 3 ヶ月											
	外来診療											
2 年次	連携施設(＋特別連携施設)											
3 年次	佐久間病院 3 ヶ月＋坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ 3 ヶ月 選択科/連携施設/特別連携施設のいずれかを 3 ヶ月ずつ 2 期間											

●老年医療コース

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 9 科ローテート研修 9 ヶ月＋選択科 3 ヶ月											
	外来診療											
2 年次	連携施設(＋特別連携施設)											
3 年次	浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院 3 ヶ月＋坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ 3 ヶ月 選択科/連携施設/特別連携施設のいずれかを 3 ヶ月ずつ 2 期間											

●Subspecialist コース(各科ごとの選択コース)

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	連携施設での内科ローテート研修(＋特別連携施設)											
2 年次	サブスペシャルティ研修/ローテート研修（聖隷浜松病院）											
	外来診療											
3 年次	サブスペシャルティ研修(聖隷浜松病院もしくは連携施設)											

※各コースとも選択科などの研修先については，各個人の希望に合わせて調整が可能です

新専門医制度　内科領域プログラム

聖隷浜松病院

1.理念・使命・特性

理念【整備基準 1】

1）本プログラムでは，静岡県西部医療圏の中心的な急性期病院の一つである聖隷浜松病院を基幹施設として，主に静岡県西部医療圏にある連携施設とともに内科専門研修を行います．静岡県の西部地域の医療状況を理解し，実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練することで，基本的臨床能力を獲得していきます．専門性の高い医療と地域に合わせた医療に接することで，知識を深めるとともに柔軟性のある総合的な能力を獲得した内科専門医の育成を行います．

2）初期臨床研修を修了した内科専攻医は，本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携施設 1 年間＋選択 1 年）に，豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で，内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたって研修します．研修を通じて，標準的かつ総合的な内科的医療の実践に必要な知識・技能を修得します．さらに個々のサブスペシャルティ専攻に合わせ，より習熟した専門領域の知識の習得も行います．

　内科領域の診療能力とは，臓器別の内科系サブスペシャルティを持つ専門医となっていく際にも共通して求められる基礎的な診療能力となります．知識や技能に偏らず患者に人間性をもって接すると同時に，医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得し，様々な環境下で基本となる総合的な内科医療を実践する能力でもあります．内科の専門研修では，幅広い疾患群を経験してゆくことにより内科の基礎的診療を学ぶとともに，疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮した対応を経験することに特徴があります．そして，これらの経験を単に記録するのではなく，病歴要約として，科学的根拠や自己省察を含めて記載し，複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも総合的医療を実践する能力を育成することを可能としています．

使命【整備基準 2】

1）静岡県西部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として，
①高い倫理観を持つ
②最新の標準的医療を実践する
③安全な医療を心がける
④プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供する
⑤臓器別・専門性に著しく偏ることなく総合的な内科診療を提供する
⑥チーム医療を円滑に運営できる
以上のような項目ができることを目標として研修を行います．

2）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も，内科専門医は常に自己研鑽を続け，最新の情報を学び，新しい技術を修得する必要があります．標準的な医療を安全に提供し，疾病の予防，早期発見，早期治療に努め，自らの診療能力をより高めることで内科医療全体の水準を高め，地域住民，日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる能力を培う研修を行います．

3）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います．

4）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究，基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います．

特性

1) 本プログラムは，静岡県西部医療圏の中心的な急性期病院である聖隷浜松病院を基幹施設として，静岡県西部医療圏，近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設における内科専門研修を経て，超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し，柔軟性が高く地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練されます．研修期間は基幹施設 1 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間を必修とし，個々の医師像に合わせた 1 年間の研修を含めて計 3 年間になります．

2) 聖隷浜松病院内科施設群専門研修では，主担当医として症例を入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲の診療することで，診断から治療に至るまでの過程を経時的に経験します．一人一人の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整を包括して総合的な医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．基幹施設および連携施設での豊富な症例を経験することで，疾患の診断・治療への診療の過程を修得することができます．

3) 基幹施設である聖隷浜松病院は，静岡県西部医療圏の中心的な高度急性期病院であり，高度専門医療も行っています．一方では，コモンディジーズから複雑な疾患まで経験可能な総合診療内科といった診療科から各専門の内科系サブスペシャルティまで幅広い症例のある病院でもあります．近年の超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療も多く行なっており，豊富な疾患の経験が可能です．もちろん，地域の中核病院として地域に根ざす第一線の病院でもあり，患者診療を介して地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

4) 基幹施設である聖隷浜松病院での 1 年間の研修および連携施設・特別連携施設での 1 年間の研修の修了時（専攻医 2 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．そして，専攻医 2 年修了時点で，指導医による形成的な指導を通じて，内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できます（P.67 別表 1「聖隷浜松病院内科専門研修における「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」の各年次到達目標について」を参照）．

5) 聖隷浜松病院内科専門研修施設群の医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために，専門研修 1～2 年次の中の 1 年間，立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行います．違う立場を経験することで内科専門医に求められている役割を研修します．

聖隷三方原病院は，ドクターヘリの運航実施施設，高度救命救急センターといった救急診療を展開しており，その一方でホスピス病棟，結核病棟，精神科病棟等も有し，終末期や慢性期の診療にも力を注いでいます．急性期から慢性期までの疾患を経験できるとともに，ドクターヘリではへき地との関係についても経験できます．地域に望まれる医療の実践を掲げ，幅広い領域に係る研修が可能です．

遠州病院は，浜松市の中心に位置し，救急患者の受け入れが多く，内科救急疾患の経験に適しています．，1～2 次救急の症例は豊富で各科の専門を持つ指導医は十分に在籍しており，基本的な領域から専門的な領域の内科疾患まで幅広く研修できます．また，回復期リハビリ病棟を併設しているケアミックスの病院であり，急性期から慢性期，更には在宅医療までも見据えた一貫した医療を経験することも可能です．

浜松医科大学は，静岡西部の医療圏にある大学病院として，専門性の高い高度医療を行っております．各科の専門を持つ指導医は十分に在籍し，基本的な領域から専門的な領域の内科疾患まで幅広く研修することができます．市中病院では経験することの少ない神経，膠原病，アレルギー，血液領域の症例が豊富で，学会発表や論文作成など学術的な指導が可能であり，充実した内科研修が可能です．

手稲渓仁会病院は，北海道札幌市の急性期病院です．最先端の医療機器と高度な技術で専門的なチーム医療を行っています。消化器医師の育成に力を入れており、短期間で集中的に多くの疾患を経験できます．

国立循環器病研究センターは，脳血管疾患と心血管疾患の高度専門医療に取り組む世界有数の施設です．「循環器病の予防と制圧」の国際拠点を目指すこと，イノベーションパークを中心としたオープンイノベーションにより最先端医療･医療技術の開発で世界をリードすること，オープンイノベーションに連動し

た周辺エリアの産業活性化を起こすことを基本理念にして診療を行っています.

一宮西病院は，愛知県尾張西部医療圏の中心的な急性期病院です．内科専門研修に必要な可塑性のある内科専門医を目指した診療を行っています．入院から退院まで経時的に診療を行い，診断・治療の流れを通じて社会的背景・療養環境調整を包括する全人的医療を実践できる研修が可能です.

中東遠総合医療センターは，静岡県掛川市にある急性期病院です．地域に根付いた中心的な病院として機能しており、内科専門研修では全人的医療を実践できる研修が可能です.

静岡赤十字病院は，静岡県静岡市医療圏の急性期病院です．将来的に日本全国で活躍できる「主治医機能」をもった内科専門医の研修が可能です.

大垣市民病院は，岐阜県西部の西濃圏域医療圏の中心的な急性期病院です．内科専門研修に必要な可塑性のある内科専門医を目指した研修が可能です.

麻生飯塚病院は，福岡県筑豊医療圏の中心的な急性期病院であり，地域連携の中核です．高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます.

京都第二赤十字病院は，京都・乙訓医療圏の高度急性期病院です。内科全般を診療でき、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の研修が可能です.

湘南鎌倉総合病院は，神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療の研修が可能です.

東京都立多摩総合医療センターは,東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。Common disease から Rare disease まで様々な症例が集積し，基本領域からサブスペシャリティ専門領域まで幅広く臨床能力を磨くことが可能です.

仙台厚生病院は,循環器内科・呼吸器内科・消化器内科・肝臓内科を大型化～超大型化し，多数の医療機関や登録医との連携の中で解決する「分担と連携」という方式の研修が可能です.

聖路加国際病院は,内科のあらゆる知識・技能・態度を身につけ，チーム医療,組織運営・管理の研修が可能です.

東京都健康長寿医療センターは，高齢者専門の急性期病院です。患者中心の内科診療と高齢者診療の研修が可能です.

浜松市リハビリテーション病院は，回復期リハビリ病院として脳卒中や交通外傷，嚥下障害といった患者のリハビリを行っています．脳卒中後の嚥下障害，誤嚥に関してはリハビリテーション科を中心に嚥下体操などの治療を行っています．慢性期の患者の管理や在宅への必要な診療の経験を行うことができます.

袋井市立聖隷袋井病院は，回復期リハビリと一般病棟、医療療養病棟を持つ地域の慢性期病院です．リハビリから長期の療養まで幅広い慢性期患者の管理や在宅への必要な診療の経験を行うことができます.

北斗わかば病院は，浜松市北部にある療養型病院です．通常の療養病床としての側面に加え，神経疾患を積極的に診療して，在宅療養への準備や再調整など幅広く行っています.

浜松市国民健康保険佐久間病院は静岡県北西端に位置し，静岡県西部のへき地医療機関の一つとして，地域医療を支えています．へき地における内科系診療に従事し，地域に根付いた診療を学ぶとともに，充分な診療環境のない中での医療を実践する力と地域に望まれる医療の意義を学びます.

坂の上ファミリークリニックは,地域での在宅医療を中心に行っています.高齢で在宅が困難な症例を,患者の希望に沿う環境作りを進め,往診･訪問看護など幅広い手法を用いて,在宅診療につなげています.また，往診や看取り等を経験する事で，住み慣れた地域で暮らす，安心して生活するための医療の実践,患者の希望に寄り添う診療経験は，医療の素養を培う上でも意義のある修練となります.

聖隷富士病院は静岡県東部に位置し，一般病床と地域包括ケア病床を有する病院です．予防から在宅までの総合的な機能を有し地域に貢献できる医療を目指しています．地域に根ざした中規模病院として開業医の先生方や訪問看護ステーション等と協力しながら継続的に患者を支える医療を経験できます。

6） 基幹施設である聖隷浜松病院での 1 年間と専門研修施設群での 1 年間，選択期間の 1 年間の修了時（専攻医 3 年修了時）で，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます．より多くの症例を経験し，「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 70 疾患群，200 症例以上の経験を目標とします（P.51 別表 1「聖隷浜松病院内科専門研修における「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」の各年次到達目標について」を参照）．

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医は，

1）高い倫理観を持つ

2）最新の標準的医療を実践する

3）安全な医療を心がける

4）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開する

といった使命があります．

内科専門医のかかわる場は多岐にわたりますが，それぞれの場に応じて，

1）地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）

2）内科系救急医療の専門医

3）病院での総合内科の専門医（Hospitalist）

4）総合内科的視点を持った Subspecialist

といった役割を果たすことで，地域住民，国民の信頼を獲得します．

それぞれのキャリア形成やライフステージ，あるいは医療環境によって，求められる内科専門医像は単一ではありません．内科専門研修の成果は，個々の環境に応じて役割を果たすことができる，柔軟かつ総合的な観点のある内科専門医を多く輩出することにあります．

聖隷浜松病院内科専門研修施設群での研修終了後はその成果として，内科医としてのプロフェッショナリズムの養成と総合的な視点・観点を持った内科専門医を育成します．また同時に，それぞれのキャリア形成やライフステージによって，Specialty と Generality の能力の各々もしくは両者を発揮できるように研修します．そして，静岡県西部医療圏に限定せず，超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得できるように養成していきます．また，希望者はサブスペシャルティ領域専門医の研修や高度・先進的医療を行うことも可能です．さらに当院では社会人大学院という方法で臨床研究を開始することも可能です．幅広い研修を可能であることも，本施設群が果たすべき役割であると考えています．

2.募集専攻医数【整備基準 27】

下記 1)～7)により，聖隷浜松病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は 1 学年 8 名とします．

1） 聖隷浜松病院の後期研修医は現在 3 学年全体で約 50 名在籍しており，そのうち内科後期研修医は現在 3 学年併せて 8 名で 1 学年 5～7 名の実績があります．

2） 聖隷浜松病院として雇用人員数に一定の制限があり，募集定員の大幅増は現実性に乏しいです．

3） 剖検体数は 2022 年 9 体，2023 年 12 体，2024 年 13 体です．

表 1　聖隷浜松病院診療科別診療実績(2022 年度)

2024 年実績	新入院患者実数（人/年）	外来延患者数（延人数/年）
総合診療内科	613	7,654
循環器科	1,330	23,502
消化器内科	2,088	32,167
脳神経内科	445	13,239
呼吸器内科	1,195	17,923
内分泌内科	217	17,578

血液内科	506	4,151
救急科	411	8,029
腎臓内科	321	7,625
膠原病リウマチ内科	133	9,087
脳卒中科	783	8,973
透析科	－	14,637
緩和医療科	－	961

4) 表 1 に入院患者数と外来延患者数を示します．血液領域は 2015 年に新設されており，現在は入院患者も徐々に増えている状況です．膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめですが，外来患者診療を含めると患者は充分に見込めます. 以上の患者数から判断すると, 1 学年 8 名に対し十分な症例を経験可能です.

5) 専門研修施設群に 13 領域の専門医が少なくとも 1 名以上在籍しています（P.26～61「聖隷浜松病院内科専門研修施設群」参照）.

6) 1 学年 8 名までの専攻医であれば，専攻医 2 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 45 疾患群，120 症例以上の診療経験と 29 病歴要約の作成は達成可能です.

7) 研修施設として，聖隷浜松病院とともに地域基幹病院である聖隷三方原病院・遠州病院・浜松医科大学・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院があり，内科の総合的な技能を修得できます．また，手稲渓仁会病院では消化器疾患の技能を修得でき，国立循環器病研究センターでは，脳血管疾患と心血管疾患の高度専門医療を中心に技能を修得でき，一宮西病院・大垣市民病院・東京都立多摩総合医療センター・仙台厚生病院・聖路加国際病院では，違う地域の内科の総合的な技能を修得でき，麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院/湘南鎌倉総合病院ではプライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を修得でき，東京都健康長寿医療センターでは，高齢者急性期の診療技能を習得できます．特別連携施設では，老年医療・リハビリを行う浜松市リハビリテーション病院・袋井市立聖隷袋井病院，神経疾患を中心に経験可能な北斗わかば病院，へき地医療を行う浜松市国民健康保険佐久間病院・聖隷富士病院および地域医療密着型の坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院があり，老年医療やへき地や在宅を中心とした医療を研修できます．施設の組み合わせにより，老年医療, 地域医療やサブスペシャルティの研修が可能であり, 各々の専攻医の希望・将来像に対応可能です.

8) 専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群，160 症例以上の診療経験は達成可能です.

3.専門知識・専門技能とは

1) 専門知識【整備基準 4】［「内科研修カリキュラム項目表」参照］

専門知識の範囲（分野）は，「総合内科」，「消化器」，「循環器」，「内分泌」，「代謝」，「腎臓」，「呼吸器」，「血液」，「神経」，「アレルギー」，「膠原病および類縁疾患」，「感染症」，ならびに「救急」で構成されます.

「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている，これらの分野における「解剖と機能」,「病態生理」,「身体診察」，「専門的検査」，「治療」，「疾患」などを目標（到達レベル）とします.

2) 専門技能【整備基準 5】［「技術・技能評価手帳」参照］

内科領域の「技能」は，幅広い疾患を網羅した知識と経験に裏付けをされるものであり，医療面接，身体診察，検査結果の解釈を行い，それらを科学的根拠に基づく情報を使って診断し，治療方針の決定までできる能力を指します．さらに総合的に患者・家族と関わることのできる能力や他のサブスペシャルティ専門医へのコンサルテーションの能力が加わります．これらは，特定の手技の修得や経験数によって表現することはできないため，技術・技能評価手帳を用い，指導医が評価を行います.

4.専門知識・専門技能の習得計画

1) 到達目標【整備基準 8～10】（P.67 別表 1「聖隷浜松病院内科専門研修における「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」の各年次到達目標について」を参照）

主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．内科領域研修を幅広く行うため，内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性があります．そこで，専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定します．

○専門研修（専攻医）1 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，少なくとも 20 疾患群，60 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．以下，全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われます．

・専門研修修了に必要な病歴要約を 10 症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針の決定を指導医，サブスペシャルティ上級医とともに行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる評価を複数回行い，担当指導医がフィードバックを行います．

○専門研修（専攻医）2 年:

・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める 70 疾患群のうち，通算で少なくとも 45 疾患群，120 症例以上を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に研修内容を登録します．

・専門研修修了に必要な病歴要約 29 症例をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了します．

・技能：研修中の疾患群について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針の決定を指導医，サブスペシャルティ上級医の監督下で行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる評価を複数回行って態度の評価を行います．専門研修（専攻医）1 年次に行った評価について，省察でき改善が得られているかについて指導医がフィードバックします．

○専門研修（専攻医）3 年:

・症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，200 症例以上経験することを目標とします．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができます）を経験し，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録します．

・専攻医として適切な経験と知識の修得ができていることを指導医が確認します．

・既に専門研修 2 年次までに登録を終えた病歴要約は，日本内科学会病歴要約評価ボード（J-OSLER）による査読を受けます．査読者の評価を受け，より良いものへ改訂します．但し，内容が不十分であり，改訂でも充分な病歴要約に変更できない内容の場合は，その年度の受理を認められない場合があり，留意する必要があります．

・技能：内科領域全般について，診断と治療に必要な身体診察，検査所見の解釈，および治療方針の決定を自立して行うことができます．

・態度：専攻医自身の自己評価と指導医，サブスペシャルティ上級医およびメディカルスタッフによる評価を複数回行い，態度の評価を行います．専門研修（専攻医）2 年次に行った評価についての省察と改善が得られているかを指導医がフィードバックします．また，内科専門医としてふさわしい態度，プロフェッショナリズム，自己学習能力を修得しているかを指導医が評価し，不十分と判断される場合には専攻医との面談などの方法でさらなる改善を図ります．

専門研修修了には，すべての病歴要約 29 症例の受理と，少なくとも 70 疾患群中の 56 疾患群以上で計 160 症例以上の経験を必要とします．日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの

登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成します.

聖隷浜松病院内科施設群専門研修では,「研修カリキュラム項目表」の知識，技術・技能修得は必要不可欠なものであり，修得するまでの最短期間は 3 年間（基幹施設 1 年間＋連携施設 1 年間＋選択 1 年間の計 3 年間）とします．しかし，修得が不十分と判断される場合には，修得できるまで研修期間を 1 年単位で延長することがあります．一方でカリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にサブスペシャルティ領域の専門医取得に向けた知識，技術・技能研修を開始することができます.

2） 臨床現場での学習【整備基準 13】

内科領域の専門知識は，広範な分野を横断的に研修し，各種の疾患経験とその詳細な考察を行うことにより獲得されます．内科領域を 70 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し，それぞれの項目に提示されているいずれかの疾患を順次経験します(疾患の種類については「研修手帳(疾患群項目表)」を参照.)．下記に示す①～⑤の過程を行うことによって専門医に必要な知識，技術・技能を修得します．経験した疾患の代表的なものについて，病歴要約や症例報告として記載します．また，経験することのできなかった症例については，カンファレンスや自己学習により知識を補足します．このような知識を補完することで，遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします.

① 内科専攻医は，担当指導医もしくはサブスペシャルティ上級医の指導の下，主担当医として入院症例と外来症例の診療を行います．これらの診療を経験し，情報をもとに考察を続けることで，内科専門医を目指して常に研鑽していきます．主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に，診断・治療を行っていくとともに，患者診療を通して個々の患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整も含めた総合的な医療を実践します.

② 定期的（毎週 1 回）に開催する各診療科のカンファレンスを通じ，担当症例の病態や診断過程の理解を深め，多面的な見方や最新の情報を得ます．その際にプレゼンターを行い，必要な情報検索を行う能力やコミュニケーション能力を高めます. 頻度の少ない症例については院内医師全体に向けたカンファレンスでプレゼンテーション･検討を行うことで症例に関してより深く知識を得て, よりよい診療にしていきます.

③ 総合内科外来（初診を含む）を週 1 回程度，1 年以上担当医として経験を積みます．ローテート研修先の診療科によっては専門外来（初診を含む）を行って経験を積むこともあります.

④ 当院の救命救急センターの内科領域の日当直を通じて，内科系救急診療の経験を積みます.

⑤ 日当直医として緊急コールに対応することで病棟急変などの経験を積みます.

⑥ 必要に応じて，サブスペシャルティ診療科で専門的な検査を経験します.

3） 臨床現場を離れた学習【整備基準 14】

内科系の臨床のローテート研修以外では，下記の事項についての研修を行う必要があります.

(1) 内科領域の救急対応

(2) 最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解

(3) 標準的な医療安全や感染対策に関する事項

(4) 医療倫理，医療安全，感染防御，臨床研究や利益相反に関する事項

(5) 専攻医の指導・評価方法に関する事項,

上記の項目については，下記の①～⑧の方法で研鑽します.

① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会

② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会※内科専攻医は年に 2 回以上受講.

③ CPC（基幹施設 2024 年度実績 8 回）

④ 研修施設群合同カンファレンス

⑤ 地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器・心臓セミナー，聖隷浜松病院循環器センター地域連携研究会，SEIREI HAMAMATSU Heart Conference，重症心不全勉強会，脳卒中市民公開セミナー，NST 地域連携セミナー，緩和医療学習会

⑥　JMECC（基幹施設　2024 年度実績 1 回）　※内科専攻医は 1～2 年次に 1 回受講.
⑦　内科系学術集会（P.10「7. 学術活動に関する研修計画」参照）
⑧　各種指導医講習会/JMECC 指導者講習会
など

4）自己学習【整備基準 15】

「研修カリキュラム項目表」では，知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し，意味を説明できる）に分類，技術・技能に関する到達レベルを A（複数回の経験を経て，安全に実施できる，または判定できる），B（経験は少数例ですが，指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる，または判定できる），C（経験はないが，自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類，さらに，症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した），B（間接的に経験している実症例をチームとして経験した，または症例検討会を通して経験した），C（レクチャー，セミナー，学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類しています（「研修カリキュラム項目表」参照）．自身の経験がなくても自己学習すべき項目については，以下の方法で学習します.

①　内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信
②　日本内科学会雑誌にある MCQ
③　日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題
など

5）研修実績および評価を記録し，蓄積するシステム【整備基準 41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，以下を web ベースで日時を含め記録します.

・専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に，通算で最低 56 疾患群以上 160 症例の研修内容を登録します．指導医はその内容を評価し，合格基準に達したと判断した場合に承認を行います.
・専攻医による逆評価を入力して記録します.
・全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し，専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（仮称）のピアレビューを受け，指摘事項に基づいた改訂を受理されるまでシステム上で行います.
・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録します.
・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC，地域連携カンファレンス，医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します.

5.プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準 13,14】

聖隷浜松病院内科専門研修施設群でのカンファレンスの概要は，施設ごとに実績を記載した（P.26～61「聖隷浜松病院内科専門研修施設群」参照）．プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である聖隷浜松病院人材育成センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

6.リサーチマインドの養成計画【整備基準 6,12,30】

内科専攻医に求められるものは，単に症例を経験することにとどまらず，これらを自ら深めてゆく姿勢です．この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります.

聖隷浜松病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても，

①　患者から学ぶという姿勢を基本とする.
②　科学的な根拠に基づいた診断，治療を行う（EBM; evidence-based medicine）.
③　最新の知識，技能を常にアップデートする（生涯学習）.
④　診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う.
⑤　症例報告を通じて深い洞察力を磨く.

といった基本的なリサーチマインドおよび学問的姿勢を育成します.

また専攻医は自身の育成と同時に，

① 初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う.
② 後輩専攻医の指導を行う.
③ メディカルスタッフを尊重し，指導を行う.
を通じて，内科専攻医としての教育活動を行います.

7.学術活動に関する研修計画【整備基準 12】

聖隷浜松病院内科専門研修施設群は基幹病院，連携病院，特別連携病院のいずれにおいても，
① 内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加します（必須）.
※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会，年次講演会，CPC および内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会を推奨します.
② 経験症例についての文献検索を行い，症例報告を行います.
③ 臨床的疑問を抽出して必要に応じて臨床研究を行います.
④ 内科学に通じる基礎研究の知識を得ます.
を通じて，科学的根拠に基づいた知識や思考能力を患者診療に活かせるようにします.

内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者 2 件以上行います.

なお，専攻医の希望があれば，浜松医科大学社会人大学院として，医師を行いながら大学院で学習・研究することが可能です. 大学院に入学した場合でも，内科専門医プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します.

8.コア・コンピテンシーの研修計画【整備基準 7】

「コンピテンシー」は観察可能な能力で，知識，技能，態度が複合された能力です. これは観察可能であり，その習得を測定し，評価できます. その中で共通・中核となるコア・コンピテンシーは倫理観・社会性です.

聖隷浜松病院内科専門研修施設群は基幹施設，連携施設，特別連携施設のいずれにおいても指導医，サブスペシャルティ上級医とともに下記①～⑩について積極的に研鑽する機会を与えます. プログラム全体と各施設のカンファレンスについては，基幹施設である聖隷浜松病院人材育成センターが把握し，定期的に E-mail などで専攻医に周知し，出席を促します.

研修やカンファレンスを通して内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得します.
① 患者とのコミュニケーション能力
② 患者中心の医療の実践
③ 患者から学ぶ姿勢
④ 自己省察の姿勢
⑤ 医の倫理への配慮
⑥ 医療安全への配慮
⑦ 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
⑧ 地域医療保健活動への参画
⑨ 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
⑩ 後輩医師への指導
※ 教える事が学ぶ事につながる経験を通し，先輩からだけではなく後輩，医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につけます.

9.地域医療における施設群の役割【整備基準 11,28】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です. 聖隷浜松病院内科専門研修施設群研修施設は静岡県西部医療圏にある連携施設・特別連携施設にて構成されています.

聖隷浜松病院は，静岡県西部医療圏の中心的な高度急性期病院であり，地域の病診・病病連携の中核として地域に根ざす第一線の病院でもあります. 高度専門医療からコモンディジーズまで経験可能であり，幅広い症例のある病院でもあります. 豊富な症例とともに患者の診療を介して地域との病病連携や病診連携も経験でき

ます．また，浜松医科大学社会人大学院を基盤としての臨床研究や豊富な症例の中から症例報告を行うなどの学術活動の素養を身につけることができます．

連携施設の聖隷三方原病院は，ドクターヘリの運航実施施設，高度救命救急センターといった救急診療を展開しており，その一方でホスピス病棟，結核病棟，精神科病棟等も有し，終末期や慢性期まで幅広く診療を行っています．急性期から慢性期までの疾患を経験できるとともに，ドクターヘリではへき地の診療など，地域に必要とされる医療を経験できます．地域に望まれる医療の実践を掲げており，幅広い領域の研修が可能です．

連携施設の遠州病院は，浜松市の中心に位置し，救急患者の受け入れが多く，救急症例の内科疾患の経験を積むことができます．また，各科の専門を持つ指導医は十分に在籍し，基本的な領域の内科疾患から専門性のある領域まで幅広く研修できます．回復期リハビリ病棟を併設しているケアミックスの病院でもあり，一般内科研修とともに，急性期から慢性期，更には在宅医療までも見据えた一貫した医療を経験することも可能です．

連携施設の浜松医科大学は，静岡西部医療圏にある大学病院として，専門性の高い高度医療を行っています．各科の専門を持つ指導医は十分に在籍し，専門的な領域の内科疾患まで幅広く研修できます．市中病院では経験することの少ない症例が豊富で，学会発表や論文作成など学術的な指導が可能です．

連携施設の中東遠総合医療センターは，地域に根付いた中心的な病院として機能しており、内科専門研修では全人的医療を実践できる研修を行っています．また，静岡赤十字病院は，静岡県静岡市医療圏の急性期病院として「主治医機能」をもった内科専門医の養成を基本理念として研修を行っています．

その他の手稲渓仁会病院と国立循環器病研究センターと一宮西病院，大垣市民病院は，施設群の地域が異なりますが，各々の病院で特色があります．手稲渓仁会病院は，消化器内科の高度な技術で専門的なチーム医療を行っています．国立循環器病研究センターでは，脳血管疾患と心血管疾患の高度専門医療に取り組んでおり，最先端医療· 医療技術の開発で世界をリードする診療を行っています．一宮西病院や大垣市民病院，麻生飯塚病院，京都第二赤十字病院，湘南鎌倉総合病院，東京都立多摩総合医療センター，仙台厚生病院，聖路加国際病院は，それぞれ違う医療圏である愛知県尾張西部医療圏・岐阜県西部西濃圏域医療圏・福岡県筑豊医療圏・神奈川県横須賀三浦医療圏・京都乙訓医療圏・東京北多摩北部・仙台医療圏・東京区中央医療圏・東京区西北部医療圏の中心的な急性期病院で，社会的背景・療養環境調整を包括した全人的医療を経験できる研修を行っています．

浜松市リハビリテーション病院は，回復期リハビリ病院として脳卒中や交通外傷，嚥下障害といった患者のリハビリを行なっています．脳卒中後の嚥下障害，誤嚥はリハビリテーション科を中心に治療を行っています．

袋井市立聖隷袋井病院は，回復期リハビリと一般病棟、医療療養病棟を持つ地域の慢性期病院です．リハビリから長期の療養まで幅広い慢性期患者の管理や在宅への必要な診療の経験を行うことができます．

北斗わかば病院は，療養病床を持ち，在宅などを含めた療養環境の準備や改善・再調整などを行っています．また，神経疾患を積極的に診療し，神経疾患の慢性期の管理や在宅への必要な診療を経験できます．

浜松市国民健康保険佐久間病院は静岡県北西端に位置し，静岡県西部のへき地医療機関の一つとして，地域医療を支えています．へき地における内科系診療に従事し，地域に根付いた診療を学ぶとともに，充分な診療環境のない中での医療を実践する力と地域に望まれる医療の意義を学びます．

坂の上ファミリークリニックは，往診を中心に行っており，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを経験できます．地域に望まれる医療のあり方を学び，よりよい内科診療を行う能力につながります．

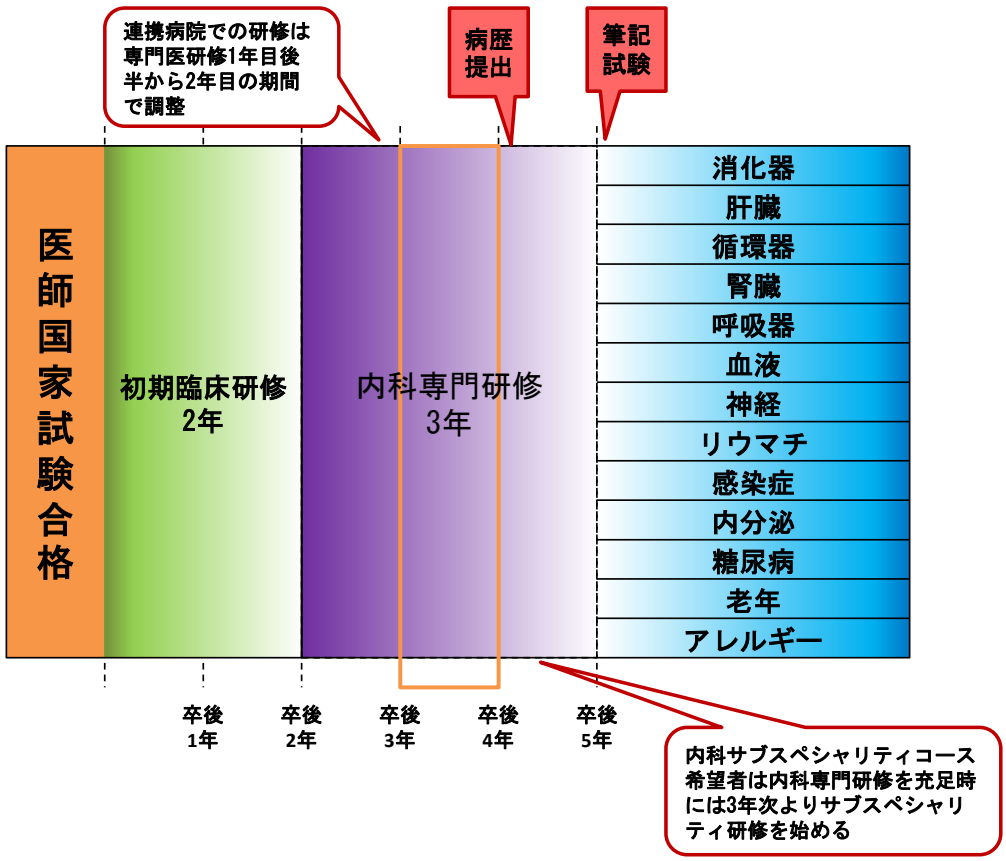
聖隷浜松病院内科専門研修施設群(P.26～61)は，ほぼ静岡県西部医療圏内で構成しており，県内で最も距離が離れている浜松市国民健康保険佐久間病院は静岡県西部にありますが，聖隷浜松病院から車を利用して，約2時間程度の移動時間です．車のみの移動となりますが，佐久間病院での研修中には近隣に寮を用意する予定であり，研修に支障はないと考えます．特別連携施設である浜松市リハビリテーション病院，北斗わかば病院，浜松市国民健康保険佐久間病院および坂の上ファミリークリニックでの研修は，聖隷浜松病院の内科専門研修プログラム管理委員会と研修委管理員会が管理と指導に関して責任を持って行います．聖隷浜松病院の担当指導医が，当該特別連携施設の上級医とともに，専攻医の指導にあたり，研修の質を保ちます．

10.地域医療に関する研修計画【整備基準 28,29】

聖隷浜松病院内科施設群専門研修では，主担当医として症例を入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲の診療することで，診断から治療に至るまでの過程を経時的に経験します．患者の全身状態，社会的背景・療養環境調整を包括して総合的な医療を実践し，個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします．基幹施設および連携施設での豊富な症例を経験することで，疾患の診断・治療への診療の過程を修得することができます．また，主担当医として診療・経験する患者を通じて，地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できます．

11.内科専攻医研修【整備基準 16】

(1) 聖隷浜松病院内科専門研修プログラムの概念（図 1）



基幹施設である聖隷浜松病院で，専門研修（専攻医）1 年次から 2 年次の間で 1 年間の専門研修を行います．専攻医 1 年次の 11 月もしくは 2 年次より 1 年間, 連携施設での専門研修を行い,専攻医 3 年次には基幹施設もしくは特別連携施設で選択研修を 1 年間行います（図 1）.

専攻医 1 年次の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる評価（内科専門研修評価）などを基に，3 年次の研修施設および研修内容を調整し決定します．病歴提出を終えた専門研修（専攻医）3 年次の 1 年間は，不足している研修の補足を行うとともに，研修達成度によっては希望診療科のローテート研修やサブスペシャルティ研修も可能です（個々の研修達成度により時期は異なります）.

(2) 聖隷浜松病院内科専門研修プログラムの研修計画

本プログラムでは専攻医の描く将来像や希望に合わせて，3 つのコースを用意しています．内科ホスピタリストコース及び内科地域医療コース，内科老年医療コース，内科サブスペシャルティコースから構成されており，いずれのコースにおいても，内科専門医を目指すために十分な症例は経験できるよう考慮されています．

基幹施設である聖隷浜松病院においては，各内科系 9 診療科より 2 科選択し，内科 1～内科 5 までの期間で順次経験していただきます．また，内科 5 および内科 6 では選択科を設け，症例の経験が不足している領域

の補充や充分に症例を経験したい領域の追加も行うことができます．研修期間を 2 分野ごとに 2 ヶ月の期間をとることで，症例の不足が起きにくい研修を実現しやすくしております．また外来診療を 1 年次から行うことで長期の経時的な診療の経験を得やすいように設計されています．さらに連携施設においても，ローテート研修を行うことで，内科領域をバランス良く研修ができる体制が取られています．

研修開始時にコース選択を行いますが，他のコースとの重なる部分も多く，条件を満たせばコース変更も認められ，その際には移行しやすいようになっています．

(1)内科総合コース

内科診療における総合力を身につけたい方，ジェネラリストの育成を目指したコースです．病院での内科診療中心もしくは老人医療やへき地・在宅医療中心のプログラムがあります．

●内科 Hospitalist コース（A または B または C）

1 年次または 2 年次において基幹施設の内科系各科または選択科を 2 科ごと合計 12 ヶ月研修します．

A では 2 年次 1 ヶ月目，B では 1 年次 1 ヶ月目より，C では 1 年次 7 ヶ月目より連携病院(+特別連携施設)での研修を 1 年間行います．3 年次には基幹施設で内科系各科・選択科もしくは連携施設/特別連携施設を 3 ヶ月ずつ計 12 ヶ月研修することができます．選択科では，より深めたい内科領域，救急医療，緩和医療などの研修も可能です．病院総合診療医（Hospitalist）を目指し各領域について研修し,その後の 3 年次の研修でじっくり時間をかけて経験していくことで，総合力の高い内科専門医を目指していける研修となります．

内科 Hospitalist コース(A)

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 1		内科 2		内科 3		内科 4		内科 5		内科 6	
	外来診療											
2 年次	連携施設(＋特別連携施設)											
3 年次	選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設		

内科 Hospitalist コース(B)

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	連携施設(＋特別連携施設)											
2 年次	内科 1		内科 2		内科 3		内科 4		内科 5		内科 6	
	外来診療											
3 年次	選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設		

内科 Hospitalist コース(C)

研修	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
1 年次	内科 1		内科 2		内科 3		連携施設(+特別連携施設)					
	外来診療											
2 年次	連携施設(+特別連携施設)						内科 4		内科 5		内科 6	
							外来診療					
3 年次	選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設			選択科/連携施設/特別連携施設		

※基幹施設ローテート研修：1～2 年次で基本 9 科(総合診療内科，呼吸器内科，消化器内科，膠原病リウマチ内科，腎臓内科，内分泌内科，血液内科，神経内科・脳卒中科，循環器科)＋選択科(基本 9 科，救急科，緩和医療科など）より 2 分野ずつ選択しローテートします．経験数の少ない領域があった場合は選択科の枠で調整し，症例を充足します．外来診療も同時に行います．

※連携施設：聖隷三方原病院･浜松医科大学･遠州病院・手稲渓仁会病院･国立循環器病研究センター･一宮西病院(注：国立循環器病研究センターおよび一宮西病院は 6 ヶ月間のみとなります) ・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院･東京都立多摩総合医療センター･仙台厚生病院･聖路加国際病院･東京都健康長寿医療センター
連携施設では主にローテート研修を行います．また，症例が充足度に応じて専攻医の希望に合わせて研修先の調整も可能です．
※特別連携施設：北斗わかば病院･佐久間病院・坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ・浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院・聖隷袋井市民病院
1～3 年次に特別連携施設での研修が選択できます．症例の充足状況などに合わせて連携病院との選択となります．
※上記はあくまで例であり，実際のローテート等は専攻医の進捗や連携施設の状況等により調整が行われます．

●内科地域医療コース

基本的なローテートは内科 Hospitalist コースに準じ，A では 2 年次 1 ヶ月目，B では 1 年次 1 ヶ月目より，C では 1 年次 7 ヶ月目より連携病院(+特別連携施設)での研修を 1 年間行います．連携施設は聖隷三方原病院もしくは遠州病院で研修します．3 年次には特別連携施設の浜松市国民健康保険佐久間病院 3 ヶ月と坂の上ファミリークリニック 3 ヶ月での研修と，基幹施設での内科系各科・選択科もしくは特別連携施設を 3 ヶ月ずつ計 6 ヶ月の研修できます．選択科では，より深めたい領域の研修，救急医療の研修，緩和医療などの研修も可能な形になっています．将来的にへき地医療や地域医療，在宅医療に強い関心のある方に十分な経験をしていただけるコースとなっています．

内科地域医療コース(A)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年次</td><td colspan="2">内科 1</td><td colspan="2">内科 2</td><td colspan="2">内科 3</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="2">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>2 年次</td><td colspan="12">連携施設</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="3">選択科/連携施設/
特別連携施設</td><td colspan="3">佐久間病院</td><td colspan="3">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="3">選択科/連携施設/
特別連携施設</td></tr>
</table>

内科地域医療コース(B)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td>1 年次</td><td colspan="12">連携施設(＋特別連携施設)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年次</td><td colspan="2">内科 1</td><td colspan="2">内科 2</td><td colspan="2">内科 3</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="2">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="3">選択科/連携施設/
特別連携施設</td><td colspan="3">佐久間病院</td><td colspan="3">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="3">選択科/連携施設
/特別連携施設</td></tr>
</table>

内科地域医療コース(C)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年次</td><td colspan="2">内科 1</td><td colspan="2">内科 2</td><td colspan="2">内科 3</td><td colspan="6" rowspan="2">連携施設</td></tr>
<tr><td colspan="6">外来診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年次</td><td colspan="6" rowspan="2">連携施設</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="2">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="6">外来診療</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="3">選択科/連携施設/
特別連携施設</td><td colspan="3">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="4">佐久間病院</td><td colspan="3">選択科/連携施設/
特別連携施設</td></tr>
</table>

※基幹施設ローテート研修：1～2 年次で基本 9 科(総合診療内科，呼吸器内科，消化器内科，膠原病リウマチ内科，腎臓内科，内分泌内科，血液内科，神経内科・脳卒中科，循環器科)＋選択科(基本 9 科，救急科，緩和医療科など) より 2 分野ずつ選択しローテートします．経験数の少ない領域があった場合は選択科の枠で調整し，症例を充足します．外来診療も同時に行います．
※連携施設：聖隷三方原病院･浜松医科大学･遠州病院・手稲渓仁会病院･国立循環器病研究センター･一宮西病院(注：国立循環

器病研究センターおよび一宮西病院は 6 ヶ月間のみとなります）・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院･東京都立多摩総合医療センター･仙台厚生病院･聖路加国際病院･東京都健康長寿医療センター
連携施設では主にローテート研修を行います．また，症例が充足度に応じて専攻医の希望に合わせて研修先の調整も可能です．
※特別連携施設：北斗わかば病院･佐久間病院・坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ・浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院・聖隷袋井市民病院
1～3 年次に特別連携施設での研修が選択できます．症例の充足状況などに合わせて連携病院との選択となります．
※上記はあくまで例であり，実際のローテート等は専攻医の進捗や連携施設の状況等により調整が行われます．

●内科老年医療コース

基本的なローテートは内科 Hospitalist コースに準じ，A では 2 年次 1 ヶ月目，B では 1 年次 1 ヶ月目より，C では 1 年次 7 ヶ月目より連携病院(+特別連携施設)での研修を 1 年間行います．連携施設は聖隷三方原病院もしくは遠州病院で研修します．3 年次には特別連携施設の浜松市国民健康保険佐久間病院 3 ヶ月と浜松市リハビリテーション病院 3 ヶ月での研修と，基幹施設での内科系各科・選択科もしくは特別連携施設を 3 ヶ月ずつ計 6 ヶ月の研修できます．選択科では，より深めたい領域の研修，救急医療の研修，緩和医療などの研修も可能な形になっています（実際の専攻医の研修の進捗や，各領域での専攻医の受入れ状況により調整することがあります）．

将来的に老年医療に強い関心のある方に十分な経験をしていただけるコースとなっています．

内科老年医療コース(A)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年次</td><td colspan="3">内科 1</td><td colspan="3">内科 2</td><td colspan="3">内科 3</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="3">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>2 年次</td><td colspan="12">連携施設</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="4">選択科/連携施設
/特別連携施設</td><td colspan="4">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="4">浜松市リハビリテー
ション病院</td><td colspan="3">選択科/連携施設
/特別連携施設</td></tr>
</table>

内科老年医療コース(B)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td>1 年次</td><td colspan="12">連携施設(＋特別連携施設)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年次</td><td colspan="3">内科 1</td><td colspan="3">内科 2</td><td colspan="3">内科 3</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="3">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="4">選択科/連携施設
/特別連携施設</td><td colspan="4">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="4">浜松市リハビリテー
ション病院</td><td colspan="3">選択科/連携施設
/特別連携施設</td></tr>
</table>

内科老年医療コース(C)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年次</td><td colspan="3">内科 1</td><td colspan="3">内科 2</td><td colspan="3">内科 3</td><td colspan="6" rowspan="2">連携施設</td></tr>
<tr><td colspan="9">外来診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年次</td><td colspan="9" rowspan="2">連携施設</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="2">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="6">外来診療</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="4">選択科/連携施設
/特別連携施設</td><td colspan="4">浜松市リハビリテー
ション病院</td><td colspan="4">坂の上ファミリー
クリニック</td><td colspan="3">選択科/連携施設
/特別連携施設</td></tr>
</table>

※基幹施設ローテート研修：1～2 年次で基本 9 科(総合診療内科，呼吸器内科，消化器内科，膠原病リウマチ内科，腎臓内科，内分泌内科，血液内科，神経内科・脳卒中科，循環器科)＋選択科(基本 9 科，救急科，緩和医療科など）より 2 分野ずつ選択しローテートします．経験数の少ない領域があった場合は選択科の枠で調整し，症例を充足します．外来診療も同時に行います．
※連携施設：聖隷三方原病院･浜松医科大学･遠州病院・手稲渓仁会病院･国立循環器病研究センター･一宮西病院(注：国立循環

器病研究センターおよび一宮西病院は 6 ヶ月間のみとなります) ・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院･東京都立多摩総合医療センター･仙台厚生病院･聖路加国際病院・東京都健康長寿医療センター
連携施設では主にローテート研修を行います．また，症例が充足度に応じて専攻医の希望に合わせて研修先の調整も可能です．
※特別連携施設：北斗わかば病院･佐久間病院・坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ・浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院・聖隷袋井市民病院
1～3 年次に特別連携施設での研修が選択できます．症例の充足状況などに合わせて連携病院との選択となります．
※上記はあくまで例であり，実際のローテート等は専攻医の進捗や連携施設の状況等により調整が行われます．

(2)内科 Subspecialist コース

専攻医の将来的なサブスペシャルティが決まっている場合に，内科専門研修の一部をオーバーラップさせた研修となっております．より早期に専門領域に目を向けたい専攻医の希望に沿えるコースとなっております．

●内科 Subspecialist コース

専攻医の希望のサブスペシャルティでの研修を内科専門研修の一部にオーバーラップさせたカリキュラムとなります．A では 2 年次 1 ヶ月目より，B は 1 年次 1 ヶ月目より連携病院(+特別連携施設)での研修を 1 年間行います(1 年目でローテート研修を行う場合，可能な連携施設は聖隷三方原病院と遠州病院となります)．その後，一部不足しているローテート研修を行って，サブスペシャルティ領域における研修を行っていきます．もし 3 年次開始時に内科専門研修を充足していない場合は，優先的に症例を充足できるよう研修を調整し，充足の後サブスペシャルティ領域の研修へと進んでいきます（実際の専攻医の研修の進捗や，各領域での専攻医の受入れ状況により調整することがあります)．

内科 Subspecialist コース(A)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1 年次</td><td colspan="2">内科 1</td><td colspan="2">内科 2</td><td colspan="2">内科 3</td><td colspan="2">内科 4</td><td colspan="2">内科 5</td><td colspan="2">内科 6</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>2 年次</td><td colspan="12">連携施設または特別連携施設でのサブスペシャルティ研修/ローテート研修</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="12">サブスペシャルティ研修(聖隷浜松病院または連携施設)</td></tr>
</table>

内科 Subspecialist コース(B)

<table>
<tr><th>研修</th><th>4 月</th><th>5 月</th><th>6 月</th><th>7 月</th><th>8 月</th><th>9 月</th><th>10 月</th><th>11 月</th><th>12 月</th><th>1 月</th><th>2 月</th><th>3 月</th></tr>
<tr><td>1 年次</td><td colspan="12">連携施設内科ローテート研修（＋特別連携施設）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2 年次</td><td colspan="12">サブスペシャルティ研修/ローテート研修</td></tr>
<tr><td colspan="12">外来診療</td></tr>
<tr><td>3 年次</td><td colspan="12">サブスペシャルティ研修(聖隷浜松病院または連携施設)</td></tr>
</table>

※基幹施設ローテート研修：1～2 年次で基本 9 科(総合診療内科，呼吸器内科，消化器内科，膠原病リウマチ内科，腎臓内科，内分泌内科，血液内科，神経内科・脳卒中科，循環器科)＋選択科(基本 9 科，救急科，緩和医療科など）より 2 分野ずつ選択しローテートします．経験数の少ない領域があった場合は選択科の枠で調整し，症例を充足します．外来診療も同時に行います．
※連携施設：聖隷三方原病院･浜松医科大学･遠州病院・手稲渓仁会病院･国立循環器病研究センター･一宮西病院(注：国立循環器病研究センターおよび一宮西病院は 6 ヶ月間のみとなります) ・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院･東京都立多摩総合医療センター･仙台厚生病院･聖路加国際病院･東京都健康長寿医療センター
連携施設では主にローテート研修を行います．また，症例が充足度に応じて専攻医の希望に合わせて研修先の調整も可能です．
※特別連携施設：北斗わかば病院･佐久間病院・坂の上ﾌｧﾐﾘｰｸﾘﾆｯｸ・浜松市ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院・聖隷袋井市民病院
1～3 年次に特別連携施設での研修が選択できます．症例の充足状況などに合わせて連携病院との選択となります．
※上記はあくまで例であり，実際のローテート等は専攻医の進捗や連携施設の状況等により調整が行われます．

12.専攻医の評価時期と方法【整備基準 17,19～22】

(1) 聖隷浜松病院人材育成センターの役割

・聖隷浜松病院内科専門研修管理委員会の事務局を行います.
・聖隷浜松病院内科専門研修プログラム開始時に, 各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認します.
・2 か月ごとに日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し，専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への記入を促します．また，各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します.
・4 か月ごとに病歴要約の作成状況を適宜追跡し，専攻医による病歴要約の作成を促します．また，各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療を経験できるように調整します.
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会の出席状況を確認します.
・年に複数回（8 月と 2 月を予定，必要に応じて臨時に），専攻医自身の自己評価を行います．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，1 か月以内に担当指導医によって専攻医にフィードバックを行い，改善を促します.
・人材育成センターは，メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月を予定，必要に応じて臨時に）行います．担当指導医，サブスペシャルティ上級医に加えて，当該科の看護課長や看護師，その他の臨床検査技師・放射線技師・臨床工学士，医療相談員や事務員などから，接点の多い職員 5 人を選択指名し，評価します．評価表では社会人としての適性，医師としての適正，コミュニケーション能力，チーム医療の一員としての適性を多職種が評価します．評価は無記名方式で，人材育成センターもしくは統括責任者が各研修施設の研修管理委員会に委託して行います. 当該研修管理委員会が 5 名以上の複数職種に回答を依頼し，その回答は担当指導医が取りまとめ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録します（他職種はシステムにアクセスしません）．その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され，担当指導医から専攻医に形成的にフィードバックを行います.
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応します.

(2) 専攻医と担当指導医の役割

・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が聖隷浜松病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます.
・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し，担当指導医はその履修状況をシステム上で確認します. 専攻医にフィードバックを行った後にシステム上で承認します．この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います.
・専攻医は，1 年次専門研修終了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群，60 症例以上の経験と登録を行うようにします．2 年次専門研修終了時に 70 疾患群のうち 45 疾患群，120 症例以上の経験と登録を行うようにします．3 年次専門研修終了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群，160 症例以上の経験の登録を修了します．それぞれの年次で登録された内容は都度，担当指導医が評価・承認します.
・担当指導医は専攻医と十分にコミュニケーションを取り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）での専攻医による症例登録や評価の状況や人材育成センターからの報告などを元に研修の進捗状況を把握します．専攻医は担当指導医やサブスペシャルティ上級医と面談し，経験すべき症例について報告・相談します．担当指導医とサブスペシャルティ上級医は，専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう，主担当医の割り振りを調整します.
・担当指導医はサブスペシャルティ上級医と協議し，専攻医の知識，技能の評価を行います.
・専攻医は，専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し，日本内科学会専攻医

登録評価システム（J-OSLER）に登録します．担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成できるように促すとともに，内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し，形成的な指導を行います．専攻医は，内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき，専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂します．これによって病歴記載能力を形成的に深化させます．

（3）評価の責任者

・年度ごとに担当指導医が評価を行い，基幹施設あるいは連携施設の内科専門研修管理委員会で検討します．その結果を年度ごとに聖隷浜松病院内科専門研修管理委員会で検討し，統括責任者が承認します．

（4）修了判定基準【整備基準 53】

1）担当指導医は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し，以下 i）～vi)の修了を確認します．

i）研修の目標としては主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し，計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができます）を経験することを目標とする．修了認定には，主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができます）を経験し，その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録済みであること．（P.67 別表 1「聖隷浜松病院内科専門研修における「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」の各年次到達目標について」を参照）．

ii）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価後の受理(アクセプト)をされていること

iii）所定の 2 編の学会発表または論文発表があること

iv）JMECC を受講していること

v）プログラムで定める講習会を受講していること

vi）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し，社会人である医師としての適性を確認されていること

2）聖隷浜松内科専門研修プログラム管理委員会は，当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し，研修期間修了約 1 か月前に聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行います．

（5）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」，「指導医による指導とフィードバックの記録」および「指導者研修計画（FD）の実施記録」は，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．なお，「聖隷浜松病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「聖隷浜松病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示します．

13.専門研修管理委員会の運営計画【整備基準 34,35,37～39】

（P.63「聖隷浜松病院内科専門研修管理委員会」参照）

1）聖隷浜松病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

i）内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります．内科専門研修プログラム管理委員会は，プログラム統括責任者（副院長），プログラム管理者（プログラム副統括責任者・内科代表）（ともに総合内科専門医かつ指導医），研修管理委員会委員長，事務局代表者 2 名，内科分野の研修指導責任者（診療科代表 3 名），看護部代表者 2 名，薬剤部代表 1 名および連携施設担当委員で構成されます．また，オブザーバーとして専攻医代表 2 名が委員会会議に参加します（P.62「聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会」参照）．聖隷浜松病院内科専門研修管理委員会の事務局を，聖隷浜松病院人材育成センターにおきます．

ii）聖隷浜松病院内科専門研修施設群は，基幹施設，連携施設ともに内科専門研修管理委員会を設置します．委員長 1 名（指導医）は，基幹施設と連携して活動するとともに専攻医に関する情報を定期的に共有するため，毎年 2 回（6 月と 12 月に予定）開催する聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席します．基幹施設，連携施設ともに，毎年 4 月 30 日までに，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行います．

① 前年度または前々年度の診療実績

a）病院病床数，b）内科病床数，c）内科診療科数，d）1 か月あたり内科外来患者数，e）1 か月あたり内科入院患者数，f）剖検数

② 専門研修指導医数および専攻医数

a）前年度の専攻医の指導実績，b）今年度の指導医数/総合内科専門医数，c）今年度の専攻医数，
d）次年度の専攻医受け入れ可能人数．

③ 前年度の学術活動

a） 学会発表，b）論文発表

④ 施設状況

a）施設区分，b）指導可能領域，c）内科カンファレンス，d）他科との合同カンファレンス，e）抄読会，
f）机，g）図書館，h）文献検索システム，i）医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会，
j）JMECC の開催．

⑤ サブスペシャルティ領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数，日本循環器学会循環器専門医数，日本内分泌学会専門医数，日本糖尿病学会専門医数，日本腎臓病学会専門医数，日本呼吸器学会呼吸器専門医数，日本血液学会血液専門医数，日本神経学会神経内科専門医数，日本アレルギー学会専門医（内科）数，日本リウマチ学会専門医数，日本感染症学会専門医数，日本救急医学会救急科専門医数

14.プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準 18,43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用します．

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨します．指導者研修（FD）の実施記録として，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います．

15.専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準 40】

労働基準法や医療法を順守することを原則とします．専門研修（専攻医）では基幹施設である聖隷浜松病院に所属している期間は聖隷浜松病院の就業環境（給与・休暇など）に基づき，就業します．専門研修（専攻医）の連携施設・特別連携施設に所属している期間はそれぞれの就業環境（給与・休暇など）に基づき，就業します（P.23～45「聖隷浜松病院内科専門研修施設群」参照）．聖隷浜松病院・聖隷三方原病院・浜松市リハビリ

テーション病院・聖隷袋井市民病院・聖隷富士病院間の移動の際は，事業団内での異動となるため，給与などの各々状況は移行されます．しかし，遠州病院・浜松医科大学・手稲渓仁会病院・国立循環器病研究センター・一宮西病院・中東遠総合医療センター・静岡赤十字病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院･東京都立多摩総合医療センター･仙台厚生病院・聖路加国際病院･東京都健康長寿医療センター・北斗わかば病院・佐久間病院との異動に関しては，それぞれに新規採用となりますので，当院と各病院での勤務年数などの状況は移行されません．

基幹施設である聖隷浜松病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境があります．
・聖隷浜松病院医師として労務環境が保障されています．
・メンタルストレスに適切に対処する部署（聖隷福祉事業団本部に委員会）があります．
・ハラスメントの相談･苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局，施設に担当窓口が整備されています．
・女性専攻医が安心して勤務できるよう休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています．
・敷地外に院内保育所があり，利用可能です．

専門研修施設群の各研修施設の状況は，P.26～61「聖隷浜松病院内科専門研修施設群」を参照．また，総括的評価を行う際，専攻医及び指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告します．報告内容には労働時間，当直回数，給与など，労働条件の内容が含まれ，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会を中心に必要に応じて適切に改善を図ります．

16.内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準 48～51】

1） 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行います．逆評価は年に複数回行います．また，年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には，研修施設ごとに逆評価を行います．その集計結果は担当指導医，施設の研修管理委員会，および内科専門研修プログラム管理委員会が閲覧します．また集計結果に基づき，聖隷浜松病院内科専門研修プログラムや指導医，あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます．

2） 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修管理委員会，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて，専攻医の逆評価，専攻医の研修状況を把握します．把握した事項については，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討します．

① 即時改善を要する事項
② 年度内に改善を要する事項
③ 数年をかけて改善を要する事項
④ 内科領域全体で改善を要する事項
⑤ 特に改善を要しない事項

なお，研修施設群内で何らかの問題が発生し，施設群内で解決が困難である場合は，専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とします．

・担当指導医，施設の内科研修管理委員会，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会，および日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニタし，聖隷浜松病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して聖隷浜松病院内科専門研修プログラムを評価します．
・担当指導医，各施設の内科専門研修管理委員会，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会，およ

び日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニタし，自律的な改善に役立てます．状況によって，日本専門医機構内科領域研修委員会の支援，指導を受け入れ，改善に役立てます．

3） 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

聖隷浜松病院人材育成センターと聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会は，聖隷浜松病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応します．その評価を基に，必要に応じて聖隷浜松病院内科専門研修プログラムの改良を行います．聖隷浜松病院内科専門研修プログラム更新の際には，サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告します．

17.専攻医の募集および採用の方法【整備基準 52】

本プログラム管理委員会は，毎年 website にて研修プログラムの公表や説明会などを行い，内科専攻医を募集します．翌年度のプログラムへの応募者は，聖隷浜松病院採用情報 website の専門医研修医の項目にある聖隷浜松病院医師募集要項（聖隷浜松病院内科専門研修プログラム）に従って応募します．書類選考および面接を行い，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会にて協議の上で採否を決定し，文書で通知します．
(問い合わせ先)聖隷浜松病院人材育成センター

E-mail：hm-kenshu@sis.seirei.or.jp

TEL：053-474-2261

HP：http://www.seirei.or.jp/hamamatsu/index.html

聖隷浜松病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は，遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行います．

18.内科専門研修の休止・中断，プログラム移動，プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムへの移動が必要になった場合，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて聖隷浜松病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し，担当指導医が認証します．これに基づき，聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後の基幹施設の内科専門研修プログラム管理委員会が，その継続的研修を相互に認証することにより，専攻医の継続的な研修を認めます．他の内科専門研修プログラムから聖隷浜松病院内科専門研修プログラムへの移動も同様です．

他の領域から聖隷浜松病院内科専門研修プログラムに移行する場合や他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を開始する場合，それまでに経験した症例を研修実績に追加する際は，当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し内科専門研修の経験としてふさわしいと認められ，かつ聖隷浜松病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合のみ，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録を認めます．症例経験の適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

初期研修時の内科研修の症例で，専門研修での経験に匹敵する経験をしたと考えられる症例については，前項と同様に当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し，担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め，さらに聖隷浜松病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り，日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認めます．症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定によります．

疾病あるいは妊娠・出産，産前後に伴う研修期間の休止については，プログラム終了要件を満たし，かつ休職期間が 6 ヶ月以内であれば，研修期間を延長する必要はないものとします．これを超える期間の休止の場合は，研修期間の延長が必要です．短時間の非常勤勤務期間などがある場合，按分計算（1 日 8 時間，週 5 日を基本単位とします）によって，研修実績に加算します．留学期間は，原則として研修期間として認めません．

聖隷浜松病院内科専門研修施設群
研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）
図 1：聖隷浜松病院内科専門研修プログラム概念図

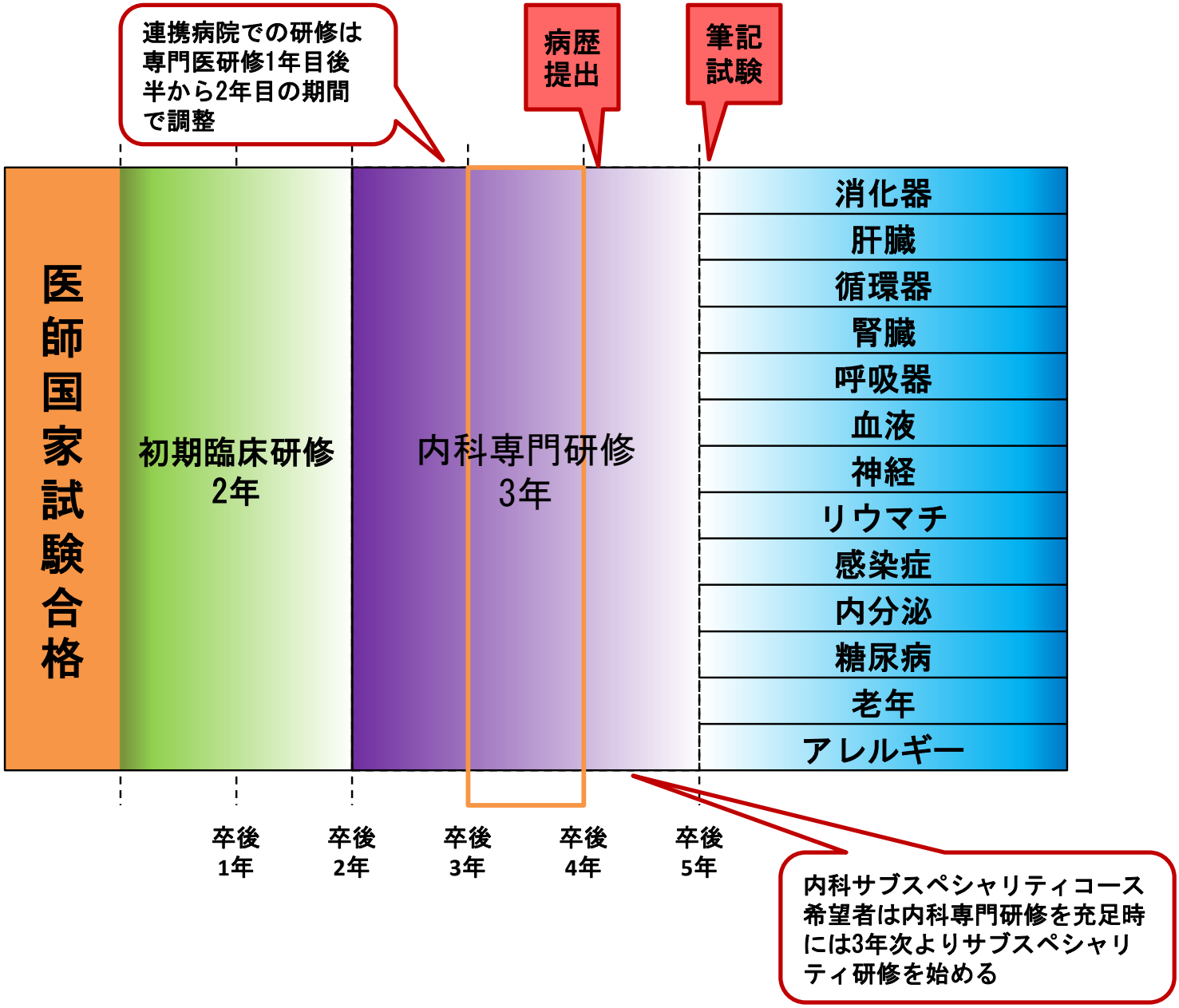


表 2：聖隷浜松病院内科専門研修施設群研修施設

施設区分	病院	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	聖隷浜松病院	750	345	9	50	41	13
連携施設	聖隷三方原病院	928	263	11	29	21	17
連携施設	遠州病院	400	150	6	9	10	3
連携施設	浜松医科大学	613	157	9	60	54	8
連携施設	手稲渓仁会病院	670	270	8	27	22	6
連携施設	国立循環器病研究センター	527	279	11	76	50	21
連携施設	一宮西病院	801	230	11	23	23	12
連携施設	中東遠総合医療センター	500	238	8	11	11	11
連携施設	静岡赤十字病院	465	209	8	20	18	6
連携施設	大垣市民病院	817	277	7	19	22	13
連携施設	麻生飯塚病院	1,040	561	18	37	47	9
連携施設	京都第二赤十字病院	667	200	6	23	25	2
連携施設	湘南鎌倉総合病院	669	321	15	46	29	13
連携施設	東京都立多摩総合医療センター	789	283	12	47	50	30
連携施設	仙台厚生病院	409	300	5	19	23	8
連携施設	聖路加国際病院	520	160	12	48	31	10
連携施設	東京都健康長寿医療センター	550	331	13	27	39	22
特別連携施設	浜松市リハビリテーション病院	90	―	―	―	―	―
特別連携施設	聖隷袋井市民病院	150	―	―	―	―	―
特別連携施設	聖隷富士病院	151	―	―	―	―	―
特別連携施設	北斗わかば病院	142	―	―	―	―	―
特別連携施設	佐久間病院	60	―	―	―	―	―
特別連携施設	坂の上ファミリークリニック	0	―	―	―	―	―
特別連携施設	坂の上在宅医療支援医院	19	―	―	―	―	―
研修施設群合計		1,757	446	20	44	28	25

表 3：各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
聖隷浜松病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
聖隷三方原病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
遠州病院	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○
浜松医科大学	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
手稲渓仁会病院	○	○	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
一宮西病院	○	○	○	○	○	△	○	△	○	×	○	△	○
中東遠総合医療センター	○	○	○	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○
静岡赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	×
大垣市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○
麻生飯塚病院	○	○	○	△	△	○	○	△	△	△	○	△	○
京都第二赤十字病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○
湘南鎌倉総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立多摩総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
仙台厚生病院	△	△	△	×	△	×	△	△	×	△	△	△	△
聖路加国際病院	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×
東京都健康長寿医療センター	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	×
浜松市リハビリテーション病院	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
聖隷袋井市民病院	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
聖隷富士病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
北斗わかば病院	○	△	△	△	△	△	△	△	○	△	△	△	△
佐久間病院	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○
坂の上ファミリークリニック	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
坂の上在宅医療支援医院	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修の可能性を 3 段階（○，△，×）に評価しました．
＜○：研修できる，△：時に経験できる，×：ほとんど経験できない＞

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】

内科領域では，多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です．聖隷浜松病院内科専門研修施設群研修施設は静岡県西部地域の医療機関から構成されています．

聖隷浜松病院は，静岡県西部医療圏の中心的な急性期病院です．研修では，地域での中核的な医療機関の果たす役割を中心に診療経験を研修します．また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます．

内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し，連携施設として静岡県西部医療圏の救急医療や緩和医療なども研修可能な高次機能・専門病院である聖隷三方原病院と救急診療および回復期リハビリ病棟を併設した中期防中核病院の遠州病院，高度医療・稀少疾患の治療も行う大学病院である浜松医科大学，地域に根付いた医療を行っている中東遠総合医療センター、主治医機能を持った内科専門医の養成を行っている静岡赤十字病院、消化器の高度専門チーム医療の手稲渓仁会病院，血管疾患の専門病院である国立循環器病研究センター，異なる医療圏の総合病院である一宮西病院・大垣市民病院・麻生飯塚病院・京都第二赤十字病院・湘南鎌倉総合病院・東京都立多摩総合医療センター・仙台厚生病院・聖路加国際病院・東京都健康長寿医療センターがあり，特別連携施設として回復期リハビリを行っている浜松市リハビリテーション病院や聖隷袋井市民病院，神経疾患を中心に診療している療養型病院の北斗わかば病院，患者の生活に根ざしたへき地での地域医療を行う浜松市国民健康保険佐久間病院や在宅医療を軸に全人的医療・看取りの医療を行っている坂の上ファミリークリニックおよび坂の上在宅医療支援病院を組み合わせています．急性期医療から慢性期医療および地域医療まで幅広く経験できることを目的に聖隷浜松病院内科専門研修施設群を構成していいます．

聖隷浜松病院を中心に高次機能・専門病院があり，高度な急性期医療・救急医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，さらに臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます．さらに施設毎に 1～2 次救急や一般内科疾患を中心とした診療や回復期リハビリ病棟で嚥下障害などを含めた慢性期の病態に関して研修，療養病棟での慢性期における内科的管理，へき地といった地域に根ざした医療，在宅医療，など幅広い研修を可能としています．

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

- 専攻医 1 年次の内科専門研修の開始時から夏頃にかけて専攻医の希望・将来像を聴取し，専攻医 1 年次の夏までの研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，連携施設での研修開始時期などを調整し決定します．
- 専攻医 1～2 年次の間で 1 年間は連携施設で研修をします（図 1）．
- 病歴提出を終える専攻医 3 年次の 1 年間，基幹施設でのローテート研修もしくは特別連携施設での研修をします（図 1）．サブスペシャルティコースでは，研修達成度が満たされている場合には専攻医 3 年次の 1 年間をサブスペシャルティ研修とすることが可能です（個々人により異なります）．

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

静岡県西部地域の医療機関にある施設から構成しています．最も距離が離れている浜松市国民健康保険佐久間病院は静岡県西部にありますが，聖隷浜松病院から車で約 2 時間程度の移動時間です．車のみの移動となりますが，佐久間病院での研修中には近隣に寮を用意する予定であり，研修に支障をきたす可能性は低いです．

1)専門研修基幹施設

聖隷浜松病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・聖隷浜松病院医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに対処する部署（聖隷福祉事業団本部に委員会）があります. ・ハラスメントに関する相談・苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局，施設に担当窓口が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・隣接敷地外に院内保育園があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医 50 が名在籍しています（下記）. ・内科専門研修プログラム管理委員会［統括責任者（副院長・循環器科診療部長），プログラム管理者（総合診療内科主任医長）（ともに指導医）；基幹施設，連携施設に設置されている研修管理委員会との連携を図ります. ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修管理委員会を設置し，設置済の人材育成センターとともに，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます．また，日本救急医学会認定 ICLS コース，AHA 認定 ACLS コースなども受講可能です. ・日本専門医機構による施設実地調査に人材育成センターが対応します. ・特別連携施設の浜松市国民健康保険佐久間病院での専門研修では，メールや電話で指導医がその施設での研修指導を行います．特別連携施設の坂の上ファミリークリニック/坂の上在宅医療支援医院での専門研修では，電話や 2 週 1 回程度で聖隷浜松病院での面談や基幹施設でのカンファレンスへの参加などにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）を研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2022 年 9 体，2023 年 12 体，2024 年 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室やインターネット環境(電子ジャーナル)などを整備しています. ・学術広報室・フォトセンターがあり，学会ポスター作成の支援が受けられます.

	・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2024 年度実績 2 回）しています. ・臨床研究管理センターを設置し，定期的に臨床研究審査委員会を開催しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会（2024 年度実績 9 演題）ならびにサブスペシャルティ学会での学会発表を含めると年間計 10 演題以上行っています. 浜松医科大学社会人大学院に入学が可能であり，研究活動を行うことができます.
指導責任者	杉浦　亮（循環器科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷浜松病院は，急性期病院として，高度な先進医療を提供するとともに，豊富な症例や指導者により，多く人材の育成を行っています．また地域の病院や開業医と病病・病診連携を行い，さらに聖隷三方原病院という系列病院や遠州病院いう地域の拠点病院と連携することで，地域医療の充実を図っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に地域の医療機関が連携し，内科専門医を育成するものです．聖隷浜松病院の理念である患者本位の医療サービスを学び，安全な医療や高度医療に触れることで，単に内科専門医を養成するだけでなく，より質の高い医療を提供できる内科医の育成を図ります．さらに，多くのサブスペシャルティの指導医と学ぶことで，内科専門医からサブスペシャルティ専門医への経験を積むことができます．先進的な医学に触れ，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数（内科系） （常勤医）	日本内科学会指導医 50 名，日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本消化器病学会消化器病専門医 10 名，日本消化器病学会指導医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本呼吸器学会指導医 4 名 日本血液学会血液専門医 3 名，日本血液学会指導医 2 名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名，日本内分泌学会指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名，日本糖尿病学会研修指導医 1 名 日本腎臓病学会腎臓専門医 2 名，日本腎臓病学会指導医 2 名， 日本肝臓学会肝臓専門医 4 名，日本肝臓学会指導医 1 名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）2 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本神経学会指導医 3 名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名， その他：（日本救急医学会救急科専門医，日本リハビリテーション医学会リハビリテーション科専門医など幅広く在籍しています.）
外来・入院患者数	外来患者　1,627 名（1 日平均）　入院患者　673 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会準教育施設
学会認定施設 (その他)	日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本高血圧学会専門医認定施設 不整脈専門医研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本てんかん学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本リハビリテーション医学会研修施設 日本臨床薬理学会認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST（栄養サポートチーム）稼動施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

2)専門研修連携施設

1. 聖隷三方原病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・聖隷三方原病院医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（聖隷福祉事業団本部に委員会）があります. ・ハラスメントに関する相談・苦情受付体制は聖隷福祉事業団本部に事務局，施設に担当窓口が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・隣接敷地内に院内保育園があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 30 名在籍しています（下記）. ・連携施設内に内科専攻医の研修管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 12 回，感染対策 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス（2025 年度予定）に定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ・内科領域，外科領域をまたぐカンファレンス（消化器合同カンファレンス，循環器心外カンファレンス，呼吸器内科外科放射線科合同カンファレンス等を開催しており，当該領域ローテート中は参加のための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス（MIKATAHARA GIM（general internal medicine）カンファレンス（2015 年度実績 2 回），がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会，病診連携カンファレンス，がん医療従事者研修，Dr.ヘリ事後検証会 等）を定期的に開催し，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 66 以上の疾患群）を研修できます. ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 17 体，2023 年度実績 12 体，2022 年度 11 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，フォトセンターなどを整備しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会（2020 年度実績 2 演題）ならびにサブスペシャルティ学会での学会発表を含めると年間計約 40 演題以上行っています
指導責任者	若林　康（循環器科　部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷三方原病院は，静岡県西部医療圏に位置する高度急性期病院であり，高度救命救急センターやドクターヘリを通じた救急診療から，ホスピスや結核，精神病床における，慢性期，終末期医療まで，地域に必要とされる医療を幅広く提供してい

	ます．様々な高度内科診療から希少疾患，コモンディシーズまで内科専門医としての素養を磨くには十分な症例経験が可能です．また，同一医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修施設群を構成しており，地域に根差した診療を大切にしながら，高度内科診療から，在宅医療，へき地医療まで，豊富な症例経験ができるようになっています．当プログラムでの研修を通じて，総合的な医療を実践できる内科専門医の育成を目指しています． 　サブスペシャルティ専門医も多数在籍しており，豊富な指導陣と症例を元に，コメディカルまでが一丸となって，専攻医のみなさんの研修がより良いものとなるよう，取り組んでいます．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 21 名 日本消化器病学会消化器病専門医 12 名，日本消化器病学会指導医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 10 名，日本呼吸器学会指導医 6 名 日本血液学会血液専門医 3 名，日本血液学会指導医 2 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名，日本内分泌学会指導医 1 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名， 日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名，日本腎臓病学会指導医 2 名 日本肝臓学会肝臓専門医 7 名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）4 名， 日本アレルギー学会指導医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本神経学会指導医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名， 日本感染症学会感染症専門医 1 名，日本感染症学会指導医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名，日本消化器内視鏡学会指導医 2 名 その他（日本救急医学会救急科専門医 7 名，ほか幅広く在籍しています．）
外来・入院患者数	外来患者 921.3 名（1 日平均）　入院患者 695.1 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度 認定施設 日本腎臓学会認定教育施設

	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設

2. JA 静岡厚生連遠州病院

認定基準 【整備基準 23】 1)　専攻医の環境	·臨床研修医臨床研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·JA 静岡厚生連遠州病院常勤医師として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります. ·コンプライアンス委員会（ハラスメント委員会を含む）が（総務課）に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)　専門研修プログラムの環境	·内科指導医が 9 名在籍しています（下記）. ·内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2014 年度実績　安全管理職員研修 2 回，医療安全 12 回，感染対策 10 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型の診療協議会（2024 年度共同診療会議 1 回/年，勉強会 8 回/年）実績）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌・代謝，腎臓，呼吸器，神経，アレルギー，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. （ただし，救急科（救急担当医 1 名），血液，膠原病は非常勤医師対応）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2022 年度実績 1 演題）をしています.
指導責任者	髙瀬浩之（副院長） 遠州病院は，浜松市南西部の急性期病院を担う病院として設立されています．内科は専門領域 7 つ（消化器，循環器，呼吸器，腎臓，内分泌・代謝，神経,）がそれぞれ特徴のある診療を行っています．市中病院ならではの common disease の症例数が豊富で地域に根ざした医療の提供を行っています.
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　9 名，日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名, 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名，日本感染症学会（推薦）による ICD 制度協議会ｲﾝﾌｪｸｼｮﾝｺﾝﾄﾛｰﾙﾄﾞｸﾀｰ（ICD)として認定 1 名
外来・入院患者数	外来患者　204 名，入院患者　115 名　（1 日平均 2024 年度実績）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応したがん患者の診断，治療，緩和ケア，終末期医療などを通じて，地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．ソーシャルメディカルスタッフ退院支援，居宅支援への取り組みも行っております.
学会認定施設 （内科サブスペシャルティ）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器学会胃腸科指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度関連施設 日本神経学会専門医制度における准教育施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本内科学会認定専門医研修関連施設

3. 浜松医科大学

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・臨床研修指定病院である. ・設内に研修に必要なインターネットの環境が整備されている. ・専攻医室が確保され、個人用机が整備されている. ・専攻医（医員）として労務環境が保障されている. ・メンタルストレスに適切に対処するため基幹施設と連携できる. ・ハラスメント委員会が整備されている. ・女性専攻医が安心して勤務できるような休憩室や更衣室等が配慮されている. ・敷地内の保育施設等が利用可能である.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 60 名在籍している（施設の研修委員会） . ・研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理 委員会と連携を図ることができる. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している．また，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている．開催が困難な場合には，基幹施設で 行う上記講演会の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えている. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている. ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている．開催が困難な場合には，基幹施設で行う CPC，もしくは日本内科学会が企画する CPC の受講を専攻医に義務付け，そのための時間的余裕を与えている. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えている.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちいずれかの分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療していること.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしている.
指導責任者	大橋　温 【内科専攻医へのメッセージ】 浜松医科大学病院は，脳神経内科，消化器内科，腎臓内科，呼吸器内科，内分泌・代謝内科，肝臓内科，循環器内科，血液内科，免疫内科の 9 つの専門科に分かれて診療を行っています．当院では，各 subspecialty 領域の専門医の資格を持った多数の指導医が在籍していること，市中病院では経験することの少ない神経，膠原病，アレルギー，血液領域の症例が豊富であること，学会発表や論文作成など学術的な指導が可能であることより，充実した内科研修が行えます．諸先生方と一緒に働けることを楽しみにしております.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 60 名，日本内科学会総合内科専門医 54 名 日本消化器病学会消化器病専門医 16 名（うち指導医 8 名）， 日本循環器学会循環器専門医 16 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 16 名（うち指導医 7 名）， 日本血液学会血液専門医 4 名（うち指導医 2 名），

	日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 7 名（うち指導医 3 名）， 日本糖尿病学会糖尿病専門医 7 名（うち指導医 2 名）， 日本腎臓病学会腎臓専門医 15 名（うち指導医 6 名）， 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名（うち指導医 2 名）， 日本アレルギー学会アレルギー専門医(内科)10 名（うち指導医 3 名）， 日本リウマチ学会専門医 3 名（うち指導医 2 名）， 日本神経学会神経内科専門医 6 名（うち指導医 3 名）， 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 1,483.5 名（1 日平均）　入院患者 540.8 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会教育病院（大学病院） 日本消化器病学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会教育施設認定 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会認定研修施設 日本老年医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本アレルギー学会認定教育施設

4. 手稲渓仁会病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･手稲渓仁会病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署「まめやか相談室」があります。 ･ハラスメントに適切に対処する部署「コンプライアンス室」があります。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように,休憩室,更衣室,仮眠室,シャワー室,当直室が整備されています。 ･近接地に病院保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 27 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて,基幹施設,連携施設に設置されている研修委員会（施設内において研修する専攻医の研修を管理する）との連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 5 回)、専攻医に受講を義務付けます。 ･地域参加型のカンファレンス（地域医師会症例検討会,地域救急医療勉強会）を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 6 体、2024 年度実績 6 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ･倫理委員会を設置しています。 ･治験に適切に対応する部署（臨床研究・治験推進室）があります。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山田 玄（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 手稲渓仁会病院は北海道札幌市西部で最大規模の 670 床を有する急性期総合病院です。内科系のさまざまな専門医資格を持った指導医が 27 名在籍し、豊富な症例で、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医27名，日本内科学会総合内科専門医22名 日本消化器病学会消化器病専門医13名，日本消化器病学会指導医7名 日本循環器学会循環器専門医14名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医3名，日本呼吸器学会指導医2名 日本血液学会血液専門医6名，日本血液学会指導医2名， 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医0名，日本内分泌学会指導医0名 日本腎臓病学会腎臓専門医2名，日本腎臓病学会指導医1名，

	日本肝臓学会肝臓専門医5名，日本肝臓学会指導医1名， 日本アレルギー学会アレルギー専門医（内科）0名， 日本アレルギー学会指導医（内科）0名， 日本神経学会神経内科専門医4名，日本神経学会指導医4名， 日本リウマチ学会リウマチ専門医2名，日本リウマチ学会指導医2名 日本感染症学会感染症専門医1名，日本感染症学会指導医0名， 日本老年医学会老年病専門医3名，日本老年医学会指導医2名
外来・入院患者数	外来患者　1,083 名（1 日平均）　入院患者 559 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科サブスペシャルティ）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本高血圧学会専門医制度研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医制度認定研修施設 日本家庭医療学会後期研修プログラム認定施設 日本老年医学会認定老年病専門医制度認定施設 日本血液学会専門医制度研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医認定施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医認定医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医制度循環器研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会腎臓専門医制度研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器科） 日本アレルギー学会準認定教育施設（総合内科・小児科）

5. 国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 23】 1)　専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)　専門研修プログラムの環境	・常勤の指導医は 76 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績各 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2023 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2017 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。（2023 年度 21 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2023 年度 383 演題）
指導責任者	野口　輝夫（冠疾患科　部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは，豊能医療圏の中心的な急性期病院であり，基幹施設と連携して内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します.
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 76 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本循環器学会循環器専門医 55 名 日本糖尿病学会専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 22 名 日本老年医学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 164, 222 名　新入院患者 158, 364 名

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科サブスペシャルティ）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

6. 一宮西病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修施設です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメントを取り扱う委員会があります. ･無料職員駐車場,更衣室,当直室が整備されています. ･提携した保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 23 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者;循環器内科副部長）,プログラム管理者（ともに総合内科専門医かつ指導医）基幹施設連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し,専攻医に受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 6 回），専攻医に受講を義務付けます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付けます. ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域13分野のうち10分野は，定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ･専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置しています. ･治験に適切に対応する部署（経営企画課）があります. ･日本内科学会講演会或いは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	田中 伸享 【内科専攻医へのメッセージ】 一宮西病院は,愛知県尾張西部医療圏の中心的な急性期病院であり、愛知県もしくは全国各地にある連携施設と協力して研修を行ないます。主担当医として,入院から退院＜初診・入院～退院・通院＞まで経時的に,診断・治療の流れを通じて,社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医23名,日本内科学会総合内科専門医23名 日本消化器病学会消化器専門医19名,日本循環器学会循環器専門医10名, 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医10名,日本糖尿病学会専門医3名, 日本腎臓学会腎臓専門医2名,日本呼吸器学会呼吸器専門医5名, 日本血液学会血液専門医1名,日本神経学会神経内科専門医4名, 日本アレルギー学会専門医2名,日本感染症学会専門医2名，　ほか
外来・入院患者数	外来患者　1,500 名（1 日平均）　入院患者　749 名（1 日平均）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設

	日本血液学会血液研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会准教育施設 日本頭痛学会 認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会 認定教育施設 日本肥満学会認定 肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 など

7. 中東遠総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・掛川市・袋井市病院企業団常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 12 名在籍しています。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、カンファランス室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会（治験審査委員会）を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計３演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	若井　正一（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院内科は、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科、総合内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、糖尿病・内分泌内科の８つの診療科を有し、必要な内科領域のすべてを経験することができます。 地域の基幹病院として、救急を断らない姿勢の病院であり、症例には事欠かない状態にあります。また、比較的希少疾患にも出会いやすく、症例を集める点に関しては、全く問題ありません。 救命救急センターを有しており、救急症例も豊富で、救急科医師との連携により、ＥＲでの外来診療から、ＩＣＵでの集中管理まで、十分な研修を行うことができます
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 12 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 3 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本肝臓学会専門医 2 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、

	日本睡眠学会専門医 1 名、日本認知症学会専門医 1 名、 日本腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名、日本漢方学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 23,415 名（1 ヶ月平均）　入院患者　12,647 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会専門医制度 関連施設 日本認知症学会教育施設 日本睡眠学会睡眠医療認定医療機関 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設　など

8. 静岡赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·静岡赤十字病院常勤あるいは非常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ·ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 20 名在籍しています。 ·プログラム管理委員会で、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会があります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群内科合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型内科合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。 ·専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 5 回）しています。 ·治験委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 6 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	久保田 英司 【内科専攻医へのメッセージ】 静岡赤十字病院は静岡県内だけでなく日本全国で活躍できる「主治医機能」をもった内科専門医の養成を基本理念としています。主治医機能とは、患者の持つ全ての病気を抽出・管理し、それに対して診療責任を持つ医師の役割のことです。主治医機能とは、単に「自分が主治医である」というような想いや感情のみで達成されるものではなく、主治医機能を発揮するために作られた診療方式を常日頃から訓練・実践することにより達成されると考えています。内科指導医の指導の下、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた研修を通じ、内科学的基本的臨床能力も併せて修得することができます。
指導医数	日本内科学会指導医 20 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名

（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本糖尿病学会専門指導医 1 名、日本内分泌代謝学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科指導医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会インフェクションコントロールドクター1 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	延外来患者 789 名、入院患者 392 名（いずれも 2024 年度 1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本腎臓学会研修施設、 日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本リウマチ学会教育施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育病院、日本神経学会専門医制度認定教育施設、 日本認知症学会専門医認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床栄養代謝学会認定 NST 稼働施設　など

9. 大垣市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大垣市民病院正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（精神神経科医師）があります。 ・ハラスメント委員会が設置されており病院内に担当者（庶務課長）が常駐しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は 19 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに日本内科学会指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院連携カンファレンス　2024 年度実績 4 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群の全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2022 年度 9 体、2023 年度 4 体、2024 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・臨床倫理委員会を設置し~~、定期的に~~開催（2024 年度実績 7 回）しています。 ・臨床研究審査委員会を設置し開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・治験管理センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2024 年度実績 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間 3 演題以上の学会発表を予定しています。
指導責任者	**傍島　裕司（研修委員会委員長）** 【内科専攻医へのメッセージ】 大垣市民病院は岐阜県西濃地区（対象人口約 38 万人）の最大の中核病院で、救急医療も盛んで一次から三次まで数多くの救急患者を扱っています。また、各疾患の症例数も東海地区では最も多く、内科の専門研修で症例の収集に困ることはありません。一方で、当院の特徴は市中病院でありながらリサーチマインドが盛んであることです。ホームページ（http://www.ogaki-mh.jp）を見ていただければわかりますが英文を含めた多くの論

	文および全国レベルでの発表をしています。各分野で多くの指導医、専門医もそろっており、内科専門医制度で資格を取得するには最適の病院と自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、 日本肝臓学会専門医 3 名、日本消化器学会消化器専門医 8 名、 日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本腎臓学会専門医 5 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本臨床腫瘍学会 1 名
外来・入院患者数	外来患者 15,431 名（1 ヶ月平均、延べ）　入院患者 8,649 名（1 ヶ月平均、延べ）内科分のみ
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ＩＣＤ/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

10. 麻生飯塚病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	□ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 □ 研修に必要な図書室とインターネット環境（有線 LAN，Wi-Fi）があります. □ 飯塚病院専攻医として労務環境が保障されています。 □ メンタルストレスに適切に対処する部署およびハラスメント窓口として医務室があります．医務室には産業医および保健師が常駐しています。 □ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 □ 敷地内に 24 時間対応院内託児所，隣接する施設に病児保育室があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	□ 指導医は 37 名在籍しています。 □ 内科専門研修プログラム管理委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 □ 基幹施設内で研修する専攻医の研修を管理する，内科専門研修委員会を設置します。 □ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年実績　医療倫理 4 回，医療安全 10 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 □ CPC を定期的に開催（2024 年実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 □ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 □ 特別連携施設の専門研修では，症例指導医と飯塚病院の担当指導医が連携し研修指導を行います．なお，研修期間中は飯塚病院の担当指導医による定期的な電話や訪問での面談・カンファレンスなどにより研修指導を行います。 □ 日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	□ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 □ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 45 以上の疾患群）について研修できます。 □ 専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	□ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 □ 倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 □ 治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています。 □ 日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表を行っています。また、国内外の内科系学会での学会発表にも積極的に取り組める環境があります。
指導責任者	本村　健太 【内科専攻医へのメッセージ】 飯塚病院内科専門研修プログラムを通じて，プライマリ・ケアから高度急性期医療，地方都市から僻地・離島の全ての診療に対応できるような能力的基盤を身に付けることができます．米国ピッツバーグ大学の教育専門医と，6 年間に亘り共同で医学教育システム作りに取り組んだ結果構築し得た，教育プログラムおよび教育指導方法を反映した研修を行います。 専攻医の皆さんの可能性を最大限に高めるための「価値ある」内科専門研修プログラムを作り続ける覚悟です．将来のキャリアパスが決定している方，していない方，いずれに対しても価値のある研修を行います。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本腎臓病学会腎臓専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 7 名、日本感染症学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,660 名　1 日平均（2024 年実績） 入院患者　 852 名　1 日平均（2024 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会 教育病院 日本救急医学会 救急科指定施設 日本消化器病学会 認定施設 日本循環器学会 研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本血液学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本腎臓学会 研修施設 日本肝臓学会 認定施設 日本神経学会 教育施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本臨床腫瘍学会 研修施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本呼吸器内視鏡学会 認定施設 日本呼吸療法医学会 研修施設 飯塚・頴田家庭医療プログラム 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本不整脈学会・日本心電図学会認定 不整脈専門医研修施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 A 日本胆道学会指導施設 日本がん治療医認定医機構 認定研修施設 日本透析医学会 認定施設 日本高血圧学会 認定施設 日本脳卒中学会 研修教育病院 日本臨床細胞学会 教育研修施設 日本東洋医学会 研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設

	日本栄養療法推進協議会 NST 稼動施設　　など

11. 京都第二赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院で、内科学会認定教育病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･常勤嘱託医師として労務環境が保障されています。 ･処置や検査等の手技訓練のためのシミュレーションセンターを設置しています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課担当）があります。 ･機能推進委員会のもとにハラスメント相談員が配置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、病児保育も利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 23 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を全職員対象に定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回開催、医療安全 1 回開催、感染対策 2 回開催）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。この他に医師対象、専攻医対象の講習会も別途開催します。 ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績　緩和ケア関連 2 回、回復期リハビリテーション関連 1 回、がん診療関連 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･70 疾患群のほぼ全疾患群について研修できます。 ･専門研修に必要な剖検を行っています。（2021 年度実績 9 件・2020 年度実績 9 件・2019 年度実績 11 件・2018 年度実績　内科系 10 体、2017 年度 10 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室。写真撮影装置、コピー機などを整備しています。 ･臨床倫理委員会を定期的に開催し、学会報告についての倫理的問題も検討しています。 ･治験審査委員会、臨床研究審査委員会が別にあり、各毎月 1 回開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2020 年度実績 3 演題）をしています。各内科領域でも活発に学会活動をしています。
指導責任者	**宇野　耕治** 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏の高度急性期病院で、地域医療支援病院、地域がん診療拠点病院、機能評価認定病院です。基幹病院と連携し、内科全般を診療でき、全人的・患者中心かつ標準的･先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を丁寧に育てていきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	内科指導医23名、日本内科学会総合内科専門医25名、日本消化器病学会消化器専門医14名、日本循環器学会循環器専門医9名、日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、日本血液学会血液専門医8名、日本アレルギー学会専

	門医4名、日本リウマチ学会専門医2名、糖尿病学会専門医1名、肝臓学会専門医3名、神経学会専門医6名、日本救急医学会救急科専門医11名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 828 名（1 日平均）　入院患者 437 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科サブスペシャルティ）	日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本神経学会教育認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設
学会認定施設 （その他）	日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練認定施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本胆道学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会集中治療専門医研修施設 日本臨床栄養代謝学会・NST 稼働認定施設 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士認定教育施設

12. 湘南鎌倉病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・669 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・「JCI」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「JMIP」（外国人患者受入れに関する認定制度）認証病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット・Wi-Fi 環境がある。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。 ・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。 ・敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。 ※「JCI」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951 年設立）の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証･証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。 ※「JMIP」とは･･･Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国人の方々が安心･安全に日本の医療サービスを享受できる ように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平 な立場で評価する認証制度である。 ※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、ワークライフバランスを病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものである。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 46 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター／内科専門研修センターを設置する。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回、受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。 ・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 ・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを通じて月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより、指導医がその施設での研修指導を行う。

認定基準 【整備基準23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても11分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2024年度実績13体）を行っている。
認定基準 【整備基準23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており､Mobileを用いた検索も全内科医師が可能な環境である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024年度実績24回　内訳；徳洲会全体12回、院内12回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2024年度実績12回）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置されCPC（cell processing center)が用意され今後の展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2023年度実績3演題）をしている。
指導責任者	小泉　一也 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に､医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに､疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し､複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医46名、日本内科学会総合内科専門医29名 日本消化器病学会消化器専門医10名、日本循環器学会循環器専門医22名、 日本糖尿病学会専門医2名、日本腎臓学会専門医10名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医名5名、 日本神経学会神経内科専門医5名、日本リウマチ学会専門医1名、 日本アレルギー学会専門医2名、日本肝臓学会肝臓専門医10名、 日本消化器内視鏡学会専門医9名、日本臨床腫瘍学会専門医3名 日本感染症学会専門医数1名
外来・入院患者数	外来患者　560,003名　(2024年実績)　入院患者　24,700名　(2024年実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症

	例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本病態栄養学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本認知症学会教育施設認定、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設

13. 東京都立多摩総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（庶務課医事課、職員担当、医局役員）がある。 ・ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように､休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー 室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 47 名在籍している(2025 年 3 月)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会(内科系副院長、プログラム統括責任者（内科系診療科部長 1 名） ・ 副プログラム統括責任者（に内科系診療科部医長各 2 名)、基幹施設内科専門研修委員長(内科系診療科部医長 1 名)（ともに総合内科専門医かつ指導医)） ・内科専門研修プログラム委員会は､基幹施設､連携施設に設置されている研修 委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を 臨床研修管理委員会に設置する。 ・医療倫理･医療安全･感染対策講習会を定期的に開催(2024 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し､専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催(2024 年度実績 10 回)し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・多摩地区の連携施設勤務医も参加する地域参加型のカンファレンスを定期的 に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に研修期間中の JMECC 受講(2024 年度開催実 績 1 回:受講者 20 名)を義務付け､そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修管理委員会が対応する。 ・特別連携施設島嶼診療所の専門研修では､電話やメールでの面談･Web 会議シ ステムなどにより指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準【整備基準 23/31】3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を 診療している(上記)。 ・その結果 70 疾患群のうちほぼ全疾患群(少なくても 35 以上の疾患群)について研修できる(上記)。 ・専門研修に必要な剖検(2019 年度 26 体、2020 年度 29 体、2021 年度 28 件、2022 年度 25 件、2023 年度 31 件、2024 年度 30 件)を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・倫理委員会を設置し､定期的に開催(2021 年度実績 12 回)している。 ･治験管理室を設置し､定期的に受託研究審査会を開催(2020 年度実績 11 回)している。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】

	佐藤文紀【内科専攻医へのメッセージ】東京都多摩地区の中心的な急性期第三次医療機関です。卓越した指導医陣のもと、内科の全領域で豊富な症例を経験できます。東京 ER（一次～三次救急）での救急医療研修（必修）と合わせて、総合診療基盤と知識技能を有した内科専門医を目指してください。新制度では、全国の連携施設や東京都島嶼等の特別連携施設での研修を通じて、僻地を含めた地域医療の重要性と問題点を学び、また貢献できます。お待ちしています！
指導医数（常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 50 名、日本消化器病学会消化器病専門医 20 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 7 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 9 名、 日本腎臓学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 11 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会アレルギー専門医 4 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 12 名、日本感染症学会感染症専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 20 名、 日本プライマリ・ケア連合学会指導医 6 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 449，354　　名（2024 年実績） 入院患者 234，713　　名（2024 年実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術･技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術･技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診･病病連携、島嶼医療なども経験できる。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会認定指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設、日本内分泌代謝科学会認定教育施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本感染症学会研修施設、日本肝臓学会認定施設　など

14. 仙台厚生病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·常勤医師として労務環境が保障されています。 ·メンタルストレス・ハラスメントに適切に対処する部署（総務部）があります。 ·女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ·敷地内に院内保育所および病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医は 19 名在籍しています。 ·内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置、既存の医学教育支援室と連携し活動します。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 43 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催（2024 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催、インストラクター2 名在籍、院内開催実績 8 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·日本専門医機構による施設実地調査に医学教育支援室が対応します。 ·特別連携施設（永仁会病院、古川星陵病院、仙石病院、広南病院）の専門研修では、電話や週 1 回の仙台厚生病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準【整備基準 23/31】3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室、読影室などを整備しています。 ·倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ·治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2024 年度実績 10 回）しています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	松田　知己 【内科専攻医へのメッセージ】 仙台厚生病院は宮城県仙台医療圏の中心的な急性期病院であり、仙台医療圏および大崎・栗原医療圏、東京都区西部および区西北部保健医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療

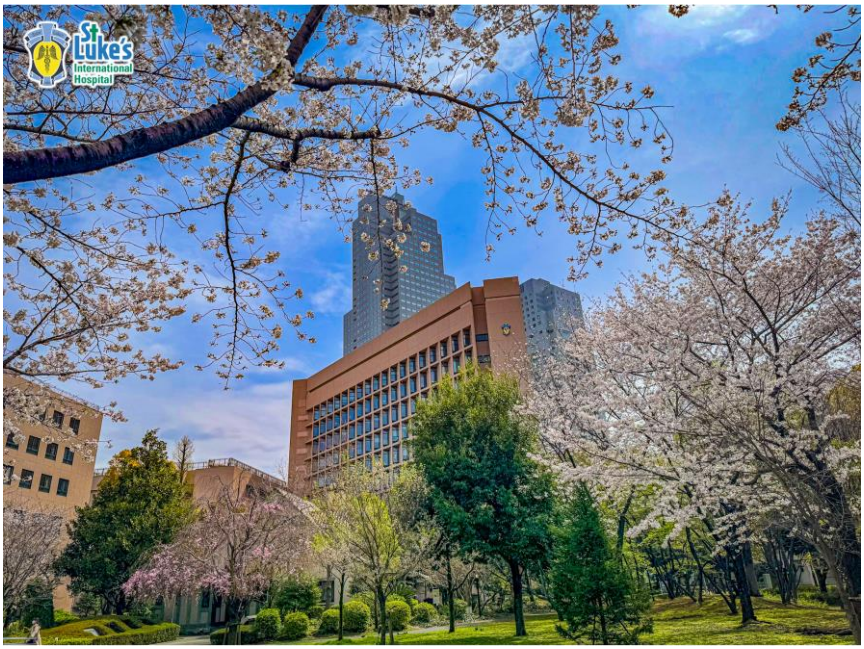
	の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。 なお特記すべき内容として、三陸沿岸からの移住者が震災後に非常に増加している大崎・栗原医療圏の地域密着型病院での研修を必須としています。これらの施設では訪問診療を含めた地域医療、高齢者医療の経験を十分に積むことを目標とします。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 19 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、日本内科学会認定内科医 36 名、内科専門医 13 名、日本循環器学会循環器専門医 18 名、日本消化器病学会消化器専門医 14 名、日本肝臓内科肝臓専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	年間入院患者実数　17,987 名、年間新外来患者数　11,453 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例 に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科サブスペシャルティ)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術指導施設 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医連携修練施設 日本循環器学会左心耳閉鎖システム実施施設 補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会

	合同教育委員会認定の経皮的動脈管閉鎖術施行施設 日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会・日本心血管インターベンション治療学会合同教育委員会認定の経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 日本心血管インターベンション治療学会潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 日本心エコー図学会　心エコー図専門医制度研修認定施設 日本アレルギー学会　アレルギー専門医準教育研修認定施設

15. 聖路加国際病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度の基幹型研修指定病院です。施設内に研修に必要な図書やインターネットの環境の整備、適切な労務環境の保障、メンタルストレスに適切に対処する部署の整備、ハラスメント委員会の整備、女性専攻医が安心して勤務できる休憩室や更衣室等の配慮、敷地内外を問わず保育施設等の利用可能。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	専門研修プログラム管理委員会と専門研修委員会が組織されています。 医療倫理・医療安全・感染対策講習会、研修施設群合同カンファレンス、CPC（年間約 30 例)、地域参加型のカンファレンス、JMECC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付けています。 施設実地調査に対応可能な体制があります。
認定基準【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	内科領域 13 の全分野で定常的に専門研修が可能な症例数があり、70 疾患群のほぼ全疾患群の研修が可能です。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会や地方会で年間約 10 演題の学会発表をしています。
指導責任者	長浜 正彦
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 14 名・総合内科専門医 34 名， 日本循環器学会循環器専門医 14 名， 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名，日本消化器病学会指導医 3 名・専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会指導医 3 名・専門医 6 名，日本呼吸器学会呼吸器指導医 3 名・専門医 10 名， 日本腎臓学会指導医 3 名・専門医 7 名，日本透析医学会指導医 2 名・専門医 7 名， 日本救急医学会指導医 3 名・救急科専門医 13 名，日本集中治療医学会専門医 14 名， 日本リウマチ学会指導医 4 名，日本感染症学会指導医 1 名・専門医 3 名，日本血液学会血液専門医 7 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者数（延べ患者数） 523,357 名（年間） 入院患者数（実数） 17,921 名（年間）
経験できる疾患群	本プログラムでは、「研修手帳（疾患群項目表)」にある内科領域の経験すべき 70 疾患群のほとんど全てを経験します
経験できる技術・技能	「技術・技能評価手帳」に示されている手技を経験するたびに登録評価システムに登録し、担当指導医が承認して到達度を評価します。
経験できる地域医療・診療連携	基幹施設の聖路加国際病院では、臓器別の subspecialty 分野に支えられた高度な急性期医療を経験し、地域の病診・病病連携の中核としての役割を経験します。 （特別）連携施設での地域医療研修では、コモンディジーズの診療だけでなく、中核病院との病病連携や診療所との病診連携、地域包括ケア、在宅医療を経験し、各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを学びます。
学会認定施設（内科サブスペシャルティ）	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

	日本不整脈心電学会不整脈専門研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本感染症学会研修施設 日本緩和医療学会連携施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設 日本糖尿病学会研修施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本成人先天性心疾患学会成人先天性心疾患専門医総合修練施設など



15. 東京都健康長寿医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	東京都健康長寿医療センターの整備状況：臨床研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある. ・ 非常勤医師として労務環境が保障されている. ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）がある. ・ ハラスメント委員会が整備されている.（H28 年度より） ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されている.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 27 名在籍している。 ・研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理･医療安全･感染対策・保険診療に関する講習会を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える（基幹施設 2024 年度実績 8 回） ・CPC を定期的に開催し､専攻医に受講を義務付け､そのための時間的余裕を与える（2024 年度実績 9 回)。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える（2024 年度実績 3 回)。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。(地域連携カンファレンス，板橋区の循環器研究会，呼吸器研究会，神経内科研究会、消化器病症例検討会；2024 年度実績 5 回) ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える ・定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会への参加の時間的余裕を与える。 ・施設実地調査についてはプログラム管理委員会が対応する。 ・特別連携施設は当院の近隣施設であり、施設責任者と指導医の連携が可能である。
認定基準【整備基準 23/31】3）診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうち、すべての疾患群について研修できる。 ・2024 年度の年間の剖検数は 42 件で専攻研修に必要な剖検数が確保できる。
認定基準 【整備基準 23】 4）学術活動の環境	・内科系学術集会の参加および発表を促し、指導する体制があり、そのための時間的余裕を与える。
指導責任者	健康長寿医療研修センター長　荒木　厚 【内科専攻医へのメッセージ】 東京都健康長寿医療センターは高齢者専門の急性期病院(550 床）として日本の高齢者医療の診療と研究をリードするとともに、内科は毎年初期研修医（約 20 名）と専攻医（約 20 名）を受け入れてきました。内科はほぼすべての分野の専門医を有する指導医がいて、かつ救急医療にも力を入れており、 ①地域の中核病院として高度の専門的医療を行う医師、 ②併設する研究所と協力して臨床研究を行うことができる医師、

	③地域との連携により退院支援や在宅医療との連携を行うことができる総合的な視点を持った医師、 ④我が国の将来の高齢者医療における診療や研究をリードする医師など幅広い医師を育成しています。 新病院となってから若い人を診療することも増えてきています。内科医としてのプロフェッショナリズムと General なマインドを持ち、超高齢社会を迎えた日本において、患者中心の内科診療と高齢者診療ができる医師を育成するために、新制度のもとではさらに質の高い内科研修ができる指導体制とプログラムを作成しました。
指導医数（常勤医）	日本消化器病学会消化器専門医 6 名，日本循環器学会循環器専門医 18 名， 日本腎臓病学会専門医 4 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名， 日本血液学会血液専門医 6 名，日本リウマチ学会専門医 4 名，ほか
外来・入院患者数	外来患者　207,124 名　1 日平均（2024 年実績） 入院患者　162,435 名　1 日平均（2024 年実績）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。 **① 定期的（毎週 1 回程度）に開催する各診療科での抄読会** **② 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会** **③ クルズス（週 1 回）** **④CC（週 1 回）と CPC（2 週に 1 回）** **⑤地域参加型のカンファレンス（地域連携カンファレンス，板橋区の循環器研究会，呼吸器研究会，神経内科研究会、消化器病症例検討会）** **⑥内科救急外来（週 1 コマ）、救急外来当直、JMECC 受講などを通じて、疾患を鑑別する基本的能力だけでなく、分析能力、プレゼンテーション能力、病院での安全管理能力、チーム医療を行う技能、救急診療の技量を幅広く見につけることができる。**
経験できる地域医療・診療連携	主担当医として、患者の全身状態，心身の機能状態、栄養、薬物、家族や社会サポート状況を考慮し、多職種によるチーム医療により療養環境を調整する包括的かつ全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。また、地域包括ケアを経験することを含め、高齢者を急性期病院から回復期、慢性期、在宅の医療の流れで、地域全体中で見る視野を養い、それぞれの病院・施設の中で果たすべき内科医の役割を実践し、身につける．主担当医として診療・経験する患者を通じて，高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験する。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育特殊施設、 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医研修施設 日本臨床検査医学会認定研修施設　など多数

3)専門研修特別連携施設

浜松市リハビリテーション病院	
所在地	〒433-8511　静岡県浜松市中央区和合北 1 丁目 6-1
TEL	053-471-8331
FAX	053-474-8819
HP	http://www.hriha.jp/
病院長	昆　博之
病床数	225 床(一般病床 180 床，療養病床 45 床) ※回復期リハビリテーション病棟 3 病棟（135 床），一般病棟 2 病棟（90 床）
標榜診療科	内科・整形外科・リハビリテーション科・歯科
診療受付時間	午前　8：30～11：00，　午後　1：30～4：00
研修可能分野	総合内科，老年病など
内科領域専門医	日本消化器内視鏡学会専門医
施設概要	浜松市リハビリテーション病院は 2008 年 4 月より社会福祉法人聖隷福祉事業団が指定管理者となり，浜松市から管理運営を委託されています．地域リハビリテーション広域支援センターに指定されており，静岡県西部地域の回復期医療の中核病院として近隣の急性期病院，診療所などと連携し，地域のニーズに即したリハビリテーション医療を中心に展開しています．また，えんげと声のセンター，スポーツ医学センターによる専門医療は，様々な職種の医療スタッフが連携したチームサポートが特徴であり，最新の医療機器を用いた臨床研究も行っています．各種健康診断や地域に根ざした講習会などの受託事業も多く，広く地域の皆さまに信頼される病院を目指しています．2014 年 4 月に耐震設備の新病院がオープンし，MRI，脳磁気刺激装置を始めとした最新診療機器，電子カルテも導入されました．2015 年 11 月には外構工事も完了し，緑豊かな環境となっています．

聖隷袋井市民病院	
所在地	〒437-0061　静岡県袋井市久能 2525－1
TEL	0538-41-2777
FAX	0538-41-2813
HP	http://www.seirei.or.jp/fukuroi/
病院長	林　泰広
病床数	150 床(一般病床 100 床，医療療養病床 50 床) ※回復期リハビリテーション病棟 1 病棟（50 床），一般病棟 1 病棟（50 床）
標榜診療科	内科・脳神経外科・整形外科・リハビリテーション科
診療受付時間	午前　8：30～11：00，　午後　1：00～2：30
研修可能分野	総合内科，老年病など
内科領域専門医	日本内科学会指導医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会指導医・専門医
施設概要	袋井市立聖隷袋井市民病院は、静岡県袋井市に位置する病院で、在宅復帰など地域診療所との連携機能の強化に努め、地域全体として切れ目のない医療の提供を目指しています。2016 年 4 月には回復期リハビリテーション病棟を開設しました。内科については 2015 年より病床がオープンし、一般および療養病棟で急性期治療後のリハビリテーション、在宅復帰、高齢者癌患者や良性疾患ターミナルの緩和ケアなどを行っています。また外来は一般内科外来として、検診業務や高血圧、糖尿病などの地域住民のリスク管理など、地域医療の下支えを行っています。急性期診療のみでなく、慢性期や在宅復帰、地域住民の健康を支える一般内科業務などが学べると思います。

聖隷富士病院	
所在地	〒417-0026 静岡県富士市南町 3-1
TEL	0545-52-0780
FAX	0545-52-5837
HP	http://www.seirei.or.jp/fuji/
病院長	小里 俊幸
病床数	151 床(一般病床 151 床)
標榜診療科	内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腎臓内科、リウマチ科、リハビリテーション科　など
診療受付時間	午前　8：30～11：00,　午後　1：00～4：0
研修可能分野	総合内科，老年病など
施設概要	聖隷富士病院は、静岡県富士市に位置する病院で、地域医療を支える病院として機能しております。指しています。2016 年 4 月には回復期リハビリテーション病棟を開設しました。基幹病院と比べれば規模が小さいためまだまだ診療体制は万全とはいえませんが、各科とも専門医が診療にあたっており、良質で信頼のできる医療の提供が可能です。また県下の基幹病院と病院間で連携を築いています。

医療法人社団　三誠会 北斗わかば病院	
所在地	〒434-0015　静岡県浜松市浜名区於呂 3181 番地 1
TEL	053-588-5000
FAX	053-588-5001
HP	http://www.hokuto-wakaba.jp/
病院長	杉本　昌宏
病床数	142 床(療養病床 142 床) ※回復期リハビリテーション病棟 3 病棟（135 床），一般病棟 2 病棟（90 床）
標榜診療科	内科・神経内科・整形外科・リハビリテーション部・リウマチ科
診療受付時間	午前　8：30～11：00，　午後　1：30～4：00
研修可能分野	総合内科，神経内科など
内科領域専門医	総合内科専門医，日本消化器病学会専門医，日本消化器内視鏡学会専門医，日本神経学会専門医
施設概要	北斗わかば病院は，より質の高い地域医療・看護・介護の実現のために，優れた医療スタッフと先進の設備・施設を備え，みどりの山々に囲まれた土地に清き流れの天竜川に沿うように，浜松市に設立しました．　院内には，神経難病（ALS や筋ジストロフィーなど）の病室も設置し，治療・療養に適した環境のなか，1 人ひとりの患者様と向かい合い，個々の尊厳を尊重しながら，回復への道を患者様とともに歩みます

浜松市国民健康保険佐久間病院	
所在地	〒431-3908　静岡県浜松市天竜区佐久間町中部 18-5
TEL	053-965-0054
FAX	053-965-0350
HP	http://sakumahp.com/
病院長	三枝　智宏
病床数	60 床(一般病床 36 床，療養病床 20 床（内 8 床 介護保険療養病床)，感染症病床 4 床)
標榜診療科	内科・小児科・外科・整形外科・眼科・精神科・リハビリテーション科
診療受付時間	午前　8：30～11：00，　午後　1：30～4：00
研修可能分野	総合内科，救急など
内科領域専門医	総合内科専門医，老年病専門医など
施設概要	静岡県の北西端に位置し，愛知県，長野県の県境に接する浜松市天竜区佐久間町において医療を展開している，県内 5 カ所あるへき地医療拠点病院の一つです． 地域の健康，保健，福祉に貢献し，訪問診療や往診，無医地区への巡回診療を行うなど，地域包括ケアに取り組んでいます．また，医療圏内に医療機関が少なく，プライマリケアの多くを当院が担当していることもあり，総合的な全人的医療を目指しています．総合医療の一環として，全ての医師がどんな患者さんでも受け入れることのできる体制をとり，高度医療を要する疾患に対しては，病病連携のなかで病院間転送の可否を速やかに決定．基幹施設ドクターヘリとの連携も行われています．

坂の上ファミリークリニック	
所在地	〒433-8113　静岡県浜松市中央区小豆餅 4-4-20
TEL	053-416-1640
FAX	053-416-1645
HP	www.sakanoue-fc.jp
病院長	青木　茂
病床数	-
標榜診療科	内科，循環器科，小児科，外科
外来診療受付時間	午前 8:00～12:00　午後 3:00～7:00 【外来休診日】 水曜午後，土曜午後，日祝
訪問診療受付時間	月～土　午前 9 時～午後 5 時（緊急時は 24 時間対応）
研修可能分野	総合内科，消化器，循環器など
内科領域専門医	循環器専門医，プライマリケア学会認定医，日本内科学会認定医， 日本リウマチ学会専門医など
施設概要	理事長　小野 宏志【施設理事長よりメッセージ】 当法人は「坂の上ファミリークリニック」と「坂の上在宅医療支援医院（有床診療所)」の 2 つの診療所，訪問事業(看護,介護,入浴,リハビリ)等を一体的に運営しています．地域医療構想のもと，在宅医療を含めた地域包括ケアの構築が必要とされていますが，このことを最前線で感じられる医療を提供しています．地域において患者さんの生活に寄り添う医療を展開しており，在宅医療，在宅ホスピスを積極的に行い，年間約 300 名近い方をご自宅で看取らせていただいています．また，ご本人様，ご家族様のご希望を尊重し，安心して最後まで自宅で暮らせるように支えていける医療の提供を目指しています．地域との関わりを持った医療や介護を提供している現場での研修を是非一度受けてみてください．病院での医療と違った視点の「支える医療」を全身で感じて理解していただくことができると思います．地域密着型の診療，病診連携の実際，在宅での看取り，緩和医療，在宅訪問診療などを研修していただけます．

坂の上在宅医療支援医院	
所在地	〒433-8123　静岡県浜松市中区幸 4-36-2
TEL	053-416-2014
FAX	053-525-7110
HP	www.sakanoue-fc.jp
病院長	坂田　稔之
病床数	19 床
標榜診療科	緩和ケア内科，内科，消化器内科
診療受付時間	月・火・木・土 AM9:30～12:30　水・金・日・祝日 休診
研修可能分野	総合，消化器など
内科領域専門医	日本消化器病学会消化器病専門医，日本消化器内視鏡学会専門医・指導医， 日本老年医学会老年病専門医，日本肝臓学会肝臓専門医， 日本内科学会総合内科専門医など
施設概要	前述の坂の上ファミリークリニックとの横断的な特別連携研修施設となります．短期の入院を中心に様々な医療を提供することで，在宅医療をサポートすることを目的としております． (1) 在宅復帰支援 ご本人様，ご家族様へ適切なアドバイスを行い，安心して自宅へ帰っていただけるようサポートしています． (2) 症状コントロール 自宅で調整が困難な時に，症状の評価や薬の調整を行います． (3) レスパイト（介護者の休息） 医療や介護の依存度が高い方を中心にお受けしております． (4) 看取り ご自宅や施設での看取りが困難な時に対応しております．

聖隷浜松病院内科専門研修プログラム管理委員会

（2025 年 4 月現在）

聖隷浜松病院

杉浦　亮　　（プログラム統括責任者，委員長，循環器科部長）
岡　俊明　　（院長）
内山　剛　　（研修管理委員会委員長，院長補佐，臨床遺伝科部長）
渡邊　卓哉　（副院長，総合診療科部長，人材育成センターセンター長）
橋本　大　　（院長補佐、呼吸器科部長）
細田　佳佐　（消化器内科部長）
大村　晋一郎（膠原病リウマチ内科部長）
三﨑　太郎　（腎臓内科部長）
柏原　由美子（内分泌内科部長）
藤澤　紳哉　（血液内科部長）
齊藤　一仁　（総合診療内科部長）
佐藤　慶史郎（脳神経内科部長）
岡村　奈緒美　（看護部，看護部長）
矢部　勝茂　（薬剤部，薬局長）
藤本　希望　（事務局代表，事務次長，人材育成センター事務室長）

連携施設担当委員

聖隷三方原病院	志智　大介
遠州病院	髙瀬　浩之
浜松医科大学	大澤　恵
手稲渓仁会病院	**金　俊文**
国立循環器病研究センター	野口　輝夫
一宮西病院	田中　伸享
中東遠総合医療センター	赤堀　利行
静岡赤十字病院	池上　良
大垣市民病院	傍島　裕司
麻生飯塚病院	小田　浩之
京都第二赤十字病院	山﨑　真裕
湘南鎌倉総合病院	西口　翔
東京都立多摩総合医療センター	佐藤　文紀
仙台厚生病院	松田　知己
聖路加国際病院	森　信好
東京都健康長寿医療センター	荒木　厚

オブザーバー

内科専攻医代表 1
内科専攻医代表 2

特別連携施設（必要時招聘）

臼井　健太（浜松市リハビリテーション病院　事務長）

杉本　昌宏（北斗わかば病院　院長）

北野谷　卓治（浜松市国民健康保険佐久間病院　事務長）

塩入　昌　（坂の上ファミリークリニック・坂の上在宅医療支援医院
事業本部　管理部 事務次長）

聖隷浜松病院内科専門研修管理委員会

（2025 年 4 月現在）

聖隷浜松病院

岡　俊明　　（院長）
渡邊　卓哉　（副院長・総合診療科部長）
内山　剛　　（研修管理委員会委員長，院長補佐、臨床遺伝科部長）
橋本　大　　（院長補佐、呼吸器科部長）
杉浦　亮　　（プログラム統括責任者，委員長，循環器科部長）
大村　晋一郎（膠原病リウマチ内科部長）
藤澤　紳哉　（血液内科部長）
柏原　裕美子（内分泌内科部長）
細田　佳佐　（消化器内科部長）
三崎　太郎　（腎臓内科部長）
齊藤　一仁　（総合診療内科部長）
佐藤　慶史郎（脳神経内科部長）
藤本　希望　（事務局代表，人材育成センター事務室長）

指導医師名一覧

診療科	氏名	所属施設
循環器科	岡　俊明	聖隷浜松病院
循環器科	杉浦　亮	聖隷浜松病院
総合診療内科	渡邊　卓哉	聖隷浜松病院
臨床遺伝内科	内山　剛	聖隷浜松病院
呼吸器科	橋本　大	聖隷浜松病院
消化器内科	細田　佳佐	聖隷浜松病院
腎臓内科	三崎　太郎	聖隷浜松病院
血液内科	藤澤　紳哉	聖隷浜松病院
内分泌内科	柏原裕美子	聖隷浜松病院
膠原病ﾘｳﾏﾁ内科	大村　晋一郎	聖隷浜松病院
総合診療内科	齊藤　一仁	聖隷浜松病院
脳神経内科	佐藤　慶史郎	聖隷浜松病院
呼吸器化学療法科	三木　良浩	聖隷浜松病院
心血管ｶﾃｰﾃﾙ治療科	岡田　尚之	聖隷浜松病院
脳卒中科	近土　善行	聖隷浜松病院
総合診療内科	本間　陽一郎	聖隷浜松病院
消化器内科	芳澤　社	聖隷浜松病院
消化器内科	室久　剛	聖隷浜松病院
消化器内科	木全　政晴	聖隷浜松病院
消化器内科	海野　修平	聖隷浜松病院
消化器内科	小林　陽介	聖隷浜松病院
消化器内科	木次　健介	聖隷浜松病院
消化器内科	山田　洋介	聖隷浜松病院
消化器内科	井田　郁美	聖隷浜松病院
消化器内科	甲田　恵	聖隷浜松病院
消化器内科	遠藤　茜	聖隷浜松病院
消化器内科	志田　麻子	聖隷浜松病院
腎臓内科	鈴木由美子	聖隷浜松病院
腎臓内科	清水　吉貴	聖隷浜松病院
腎臓内科	佐藤　太一	聖隷浜松病院
循環器科	逸見　隆太	聖隷浜松病院
循環器科	磯村　大地	聖隷浜松病院
循環器科	齋藤　秀樹	聖隷浜松病院
循環器科	髙見　浩仁	聖隷浜松病院
循環器科	後藤　雅之	聖隷浜松病院
循環器科	鈴木　利章	聖隷浜松病院
循環器科	山口　千之	聖隷浜松病院
循環器科	藤城　奈奈	聖隷浜松病院
呼吸器内科	三輪　秀樹	聖隷浜松病院
呼吸器内科	河野　雅人	聖隷浜松病院

診療科	氏名	所属施設
呼吸器内科	勝又　峰生	聖隷浜松病院
呼吸器内科	青野　祐也	聖隷浜松病院
呼吸器内科	二橋　文哉	聖隷浜松病院
呼吸器内科	竹田　健一郎	聖隷浜松病院
呼吸器内科	日笠　美郷	聖隷浜松病院
脳神経内科	明神　寛暢	聖隷浜松病院
脳神経内科	石井　辰仁	聖隷浜松病院
血液内科	髙羽　理光	聖隷浜松病院
血液内科	依田　在理	聖隷浜松病院
内分泌内科	岩崎　文菜	聖隷浜松病院
感染症･ﾘｳﾏﾁ内科	志智　大介	聖隷三方原病院
血液内科	平野　功	聖隷三方原病院
呼吸器科	横村　光司	聖隷三方原病院
呼吸器科	松井　隆	聖隷三方原病院
呼吸器科	長谷川　浩嗣	聖隷三方原病院
呼吸器科	加藤　慎平	聖隷三方原病院
呼吸器科	天野　雄介	聖隷三方原病院
呼吸器科	小谷内　敬史	聖隷三方原病院
消化器内科	多々内　暁光	聖隷三方原病院
消化器内科	山田　哲	聖隷三方原病院
消化器内科	久保田　望	聖隷三方原病院
消化器内科	佐藤　義久	聖隷三方原病院
消化器内科	大原　和人	聖隷三方原病院
総合診療内科	山田　未央	聖隷三方原病院
ホスピス科	今井　堅吾	聖隷三方原病院
循環器科	若林　康	聖隷三方原病院
循環器科	川口　由高	聖隷三方原病院
循環器科	宮島　佳祐	聖隷三方原病院
神経内科	荒井　元美	聖隷三方原病院
腎臓内科	松島　秀樹	聖隷三方原病院
腎臓内科	杉浦　剛	聖隷三方原病院
腎臓内科	村上　陽一	聖隷三方原病院
腎臓内科	服部　宗軒	聖隷三方原病院
内分泌代謝科	岩渕　昌康	聖隷三方原病院
内分泌代謝科	糟谷　真樹子	聖隷三方原病院
緩和支持治療科	森　雅紀	聖隷三方原病院
救急科	志賀　一博	聖隷三方原病院
脳卒中科	本間　一成	聖隷三方原病院
内科	髙瀬　浩之	遠州病院
内科	白井　直人	遠州病院

診療科	氏名	所属施設
内科	竹内　靖雄	遠州病院
内科	高垣　航輔	遠州病院
内科	待井v将志	遠州病院
内科	野中　大史	遠州病院
内科	鈴木　究子	遠州病院
内科	貝田　勇介	遠州病院
内科	加藤　真人	遠州病院
内科	高橋　良知	遠州病院
内科	渥美　浩克	遠州病院
消化器内科	杉本　健	浜松医科大学
消化器内科	岩泉　守哉	浜松医科大学
消化器内科	山田 貴教	浜松医科大学
消化器内科	大澤　恵	浜松医科大学
消化器内科	山出　美穂子	浜松医科大学
消化器内科	濱屋　寧	浜松医科大学
消化器内科	松浦　友春	浜松医科大学
消化器内科	石田 夏樹	浜松医科大学
消化器内科	杉浦 喜一	浜松医科大学
腎臓内科	安田　日出夫	浜松医科大学
腎臓内科	大橋　温	浜松医科大学
腎臓内科	藤倉　知行	浜松医科大学
腎臓内科	石垣　さやか	浜松医科大学
腎臓内科	磯部 伸介	浜松医科大学
腎臓内科	岩倉 考政	浜松医科大学
腎臓内科	辻　尚子	浜松医科大学
脳神経内科	中村 友彦	浜松医科大学
脳神経内科	武内 智康	浜松医科大学
脳神経内科	長島 優	浜松医科大学
呼吸器内科	須田　隆文	浜松医科大学
呼吸器内科	藤澤 朋幸	浜松医科大学
呼吸器内科	古橋　一樹	浜松医科大学
呼吸器内科	鈴木　勇三	浜松医科大学
呼吸器内科	乾　直輝	浜松医科大学
呼吸器内科	榎本　紀之	浜松医科大学
呼吸器内科	柄山　正人	浜松医科大学
呼吸器内科	穂積　宏尚	浜松医科大学
呼吸器内科	井上 裕介	浜松医科大学
呼吸器内科	安井 秀樹	浜松医科大学
呼吸器内科	宮下 晃一	浜松医科大学
内分泌内科	松下　明生	浜松医科大学

診療科	氏名	所属施設
内分泌内科	山下　美保	浜松医科大学
内分泌内科	釣谷　大輔	浜松医科大学
内分泌内科	柿沢　圭亮	浜松医科大学
内分泌内科	橋本 卓也	浜松医科大学
内分泌内科	河内 優人	浜松医科大学
肝臓内科	川田　一仁	浜松医科大学
肝臓内科	則武 秀尚	浜松医科大学
肝臓内科	太田 和義	浜松医科大学
肝臓内科	千田 剛士	浜松医科大学
肝臓内科	山下 真帆	浜松医科大学
肝臓内科	梅村 昌宏	浜松医科大学
循環器内科	前川　裕一郎	浜松医科大学
循環器内科	早乙女　雅夫	浜松医科大学
循環器内科	大谷　速人	浜松医科大学
循環器内科	成瀬　代士久	浜松医科大学
循環器内科	諏訪　賢一郎	浜松医科大学
循環器内科	佐野　誠	浜松医科大学
循環器内科	井口　恵介	浜松医科大学
循環器内科	佐藤 照盛	浜松医科大学
循環器内科	坂本 篤志	浜松医科大学
循環器内科	金子 裕太郎	浜松医科大学
循環器内科	水野 雄介	浜松医科大学
血液内科	小野　孝明	浜松医科大学
血液内科	永田 泰之	浜松医科大学
血液内科	竹村 兼成	浜松医科大学
血液内科	安達 美和	浜松医科大学
免疫・リウマチ内科	下山　久美子	浜松医科大学
免疫・リウマチ内科	古川 省悟	浜松医科大学
救急部	齊藤　岳児	浜松医科大学
総合内科	星　哲哉	手稲渓仁会病院
総合内科	芹澤 良幹	手稲渓仁会病院
呼吸器内科	山田　玄	手稲渓仁会病院
呼吸器内科	横尾　慶紀	手稲渓仁会病院
循環器内科	湯田　聡	手稲渓仁会病院
循環器内科	岩野 弘幸	手稲渓仁会病院
循環器内科	土井 崇裕	手稲渓仁会病院
循環器内科	髙木　祐介	手稲渓仁会病院
循環器内科	西崎　史恵	手稲渓仁会病院
循環器内科	西崎　公貴	手稲渓仁会病院
消化器内科	辻　邦彦	手稲渓仁会病院

診療科	氏名	所属施設
消化器内科	松居　剛志	手稲渓仁会病院
消化器内科	原田　拓	手稲渓仁会病院
消化器内科	金　俊文	手稲渓仁会病院
消化器内科	田中　一成	手稲渓仁会病院
消化器内科	高橋　邦幸	手稲渓仁会病院
血液内科	林　敏昭	手稲渓仁会病院
血液内科	前森　雅世	手稲渓仁会病院
血液内科	山口　圭介	手稲渓仁会病院
血液内科	酒井　基	手稲渓仁会病院
腎臓内科	茂庭　仁人	手稲渓仁会病院
腎臓内科	前田　卓人	手稲渓仁会病院
腫瘍内科	石黒　敦	手稲渓仁会病院
脳血管内科	山口　佳剛	手稲渓仁会病院
リウマチ膠原病科	平野　史生	手稲渓仁会病院
リウマチ膠原病科	松井　和生	手稲渓仁会病院
感染症科	菊池　航紀	手稲渓仁会病院
病院総合診療科	眞部　建郎	手稲渓仁会病院
不整脈科	草野　研吾	国立循環器病センター
臨床検査部	相庭　武司	国立循環器病センター
不整脈科	永瀬　聡	国立循環器病センター
不整脈科	宮本　康二	国立循環器病センター
不整脈科	井上　優子	国立循環器病センター
不整脈科	石橋　耕平	国立循環器病センター
不整脈科	和田　暢	国立循環器病センター
不整脈科	鎌倉　令	国立循環器病センター
不整脈科	上田　暢彦	国立循環器病センター
不整脈科	中島　健三郎	国立循環器病センター
不整脈科	若宮　輝宜	国立循環器病センター
不整脈科	宮崎　裕一郎	国立循環器病センター
不整脈科	岡　怜史	国立循環器病センター
不整脈科	中村　俊宏	国立循環器病センター
肺循環科	大郷　剛	国立循環器病センター
肺循環科	林　浩也	国立循環器病センター
心不全科	泉　知里	国立循環器病センター
心不全科	神﨑　秀明	国立循環器病センター
心不全科	天木　誠	国立循環器病センター
心不全科	岡田　厚	国立循環器病センター
心不全科	天野　雅史	国立循環器病センター
心不全科	北井　豪	国立循環器病センター
心不全科	森内　健史	国立循環器病センター
心不全科	入江　勇旗	国立循環器病センター

診療科	氏名	所属施設
冠疾患科	野口　暉夫	国立循環器病センター
冠疾患科	片岡　有	国立循環器病センター
冠疾患科	髙木　健督	国立循環器病センター
冠疾患科	中尾　一泰	国立循環器病センター
冠疾患科	村田　誠	国立循環器病センター
冠疾患科	米田　秀一	国立循環器病センター
冠疾患科	真玉　英生	国立循環器病センター
冠疾患科	三浦　博之	国立循環器病センター
冠疾患科	邑井　洸太	国立循環器病センター
心臓血管系集中治療科	浅海　泰栄	国立循環器病センター
心臓血管系集中治療科	田原　良雄	国立循環器病センター
心臓血管系集中治療科	本田　怜史	国立循環器病センター
心臓血管系集中治療科	岩井　雄大	国立循環器病センター
心臓血管系集中治療科	澤田　賢一郎	国立循環器病センター
血管科	柳生　剛	国立循環器病センター
脳血管部門	豊田　一則	国立循環器病センター
脳血管内科	古賀　政利	国立循環器病センター
脳血管内科	井上　学	国立循環器病センター
脳血管内科	横田　千晶	国立循環器病センター
脳血管内科	吉村　壮平	国立循環器病センター
脳血管内科	三輪　佳織	国立循環器病センター
脳血管内科	吉江　智秀	国立循環器病センター
脳血管内科	鴨川　徳彦	国立循環器病センター
脳血管内科	塩澤　真之	国立循環器病センター
脳血管内科	福田　真弓	国立循環器病センター
脳血管内科	石上　晃子	国立循環器病センター
脳神経内科	猪原　匡史	国立循環器病センター
脳神経内科	服部　頼都	国立循環器病センター
脳神経内科	田中　智貴	国立循環器病センター
脳神経内科	齊藤　聡	国立循環器病センター
脳神経内科	石山　浩之	国立循環器病センター
脳神経内科	殿村　修一	国立循環器病センター
脳神経内科	山口　枝里子	国立循環器病センター
脳神経内科	藤原　悟	国立循環器病センター
腎臓・高血圧内科	吉原　史樹	国立循環器病センター
腎臓・高血圧内科	岸田　真嗣	国立循環器病センター
腎臓・高血圧内科	松尾　実紀	国立循環器病センター
腎臓・高血圧内科	有里　哲哉	国立循環器病センター
腎臓・高血圧内科	園浦　拓龍	国立循環器病センター
糖尿病･脂質代謝内科	槇野　久士	国立循環器病センター
糖尿病･脂質代謝内科	大畑　洋子	国立循環器病センター

診療科	氏名	所属施設
糖尿病･脂質代謝内科	玉那覇　民子	国立循環器病センター
糖尿病･脂質代謝内科	肥塚　諒	国立循環器病センター
糖尿病･脂質代謝内科	野口　倫生	国立循環器病センター
糖尿病･脂質代謝内科	橡谷　真由	国立循環器病センター
呼吸器内科･感染対策室	佐田　誠	国立循環器病センター
呼吸器内科･感染対策室	高橋　彩子	国立循環器病センター
移植医療部	塚本　泰正	国立循環器病センター
移植医療部	佐藤　琢真	国立循環器病センター
移植医療部	渡邉　琢也	国立循環器病センター
移植医療部	望月　宏樹	国立循環器病センター
移植医療部	塩村　玲子	国立循環器病センター
消化器内科	森　昭裕	一宮西病院
脳神経内科	山口　啓二	一宮西病院
循環器内科	田中　伸享	一宮西病院
呼吸器内科	竹下　正教	一宮西病院
消化器内科	林　晋太郎	一宮西病院
消化器内科	東　玲治	一宮西病院
循環器内科	古川　善郎	一宮西病院
糖尿病･内分泌科	伏見　宣俊	一宮西病院
消化器内科	矢田　雅佳	一宮西病院
総合内科	笹木　晋	一宮西病院
消化器内科	與儀　竜治	一宮西病院
脳神経内科	岡田　弘明	一宮西病院
循環器内科	市橋　敬	一宮西病院
循環器内科	篠田　明紀良	一宮西病院
腎臓内科	美浦　利幸	一宮西病院
消化器内科	百々　弘樹	一宮西病院
糖尿病･内分泌科	原田　雄太	一宮西病院
脳神経内科	中井　良幸	一宮西病院
呼吸器内科	小澤　達志	一宮西病院
呼吸器内科	石田　貢一	一宮西病院
血液内科	畦西　恭彦	一宮西病院
循環器内科	寺村　真範	一宮西病院
総合内科	竹之内　盛志	一宮西病院
消化器内科	堀　圭介	一宮西病院
脳神経内科	金井　雅裕	一宮西病院
循環器内科	前田　拓哉	一宮西病院
呼吸器内科	村田　泰規	一宮西病院
脳神経内科	栗田　尚英	一宮西病院
消化器内科	熊原　加奈	一宮西病院
循環器内科	旦　一宏	一宮西病院

診療科	氏名	所属施設
血液内科	一木　章史	一宮西病院
循環器内科	髙瀬　哲郎	一宮西病院
糖尿病･内分泌科	長尾　真知	一宮西病院
循環器内科	石倉　正大	一宮西病院
血液内科	島　悦子	一宮西病院
脳神経内科	若井正一	中東遠総合医療センター
腎臓内科	赤堀利行	中東遠総合医療センター
腎臓内科	稲垣浩司	中東遠総合医療センター
腎臓内科	辻将志	中東遠総合医療センター
総合内科	大瀬綾子	中東遠総合医療センター
消化器内科	池上脩二	中東遠総合医療センター
消化器内科	高柳正弘	中東遠総合医療センター
循環器内科	森川修司	中東遠総合医療センター
循環器内科	髙山洋平	中東遠総合医療センター
循環器内科	城向裕美子	中東遠総合医療センター
循環器内科	井上直也	中東遠総合医療センター
呼吸器内科	森川昇	中東遠総合医療センター
総合内科	久保田　英司	静岡赤十字病院
総合内科	池上　良	静岡赤十字病院
総合内科	松本　朋美	静岡赤十字病院
総合内科	高木　保	静岡赤十字病院
リウマチ内科	曽我　隆義	静岡赤十字病院
リウマチ内科	村松　瑞穂	静岡赤十字病院
リウマチ内科	齋藤　麻由	静岡赤十字病院
呼吸器内科	松田　宏幸	静岡赤十字病院
脳神経内科	芹澤　正博	静岡赤十字病院
脳神経内科	今井　昇	静岡赤十字病院
脳神経内科	小西　高志	静岡赤十字病院
脳神経内科	八木　宣泰	静岡赤十字病院
脳神経内科	守屋　麻美	静岡赤十字病院
脳神経内科	鈴木　理恵子	静岡赤十字病院
糖尿病・内分泌科	平原　直子	静岡赤十字病院
血液内科	田口　淳	静岡赤十字病院
血液内科	小原澤　英之	静岡赤十字病院
消化器内科	杉山　智洋	静岡赤十字病院
循環器内科	松成　政良	静岡赤十字病院
循環器内科	髙嶋　泰世	静岡赤十字病院
消化器内科	谷川　誠	大垣市民病院
消化器内科	久永　康宏	大垣市民病院
消化器内科	豊田　秀徳	大垣市民病院
消化器内科	北畠　秀介	大垣市民病院

診療科	氏名	所属施設
呼吸器内科	安部　崇	大垣市民病院
呼吸器内科	中島　治典	大垣市民病院
循環器内科	森島　逸郎	大垣市民病院
循環器内科	森田　康弘	大垣市民病院
循環器内科	渡邊　直樹	大垣市民病院
糖尿病･腎臓内科	傍島　裕司	大垣市民病院
糖尿病･腎臓内科	大橋　徳巳	大垣市民病院
糖尿病･腎臓内科	藤谷　淳	大垣市民病院
糖尿病･腎臓内科	永田　高信	大垣市民病院
血液内科	小杉　浩史	大垣市民病院
血液内科	新美　圭子	大垣市民病院
血液内科	高木　雄介	大垣市民病院
神経内科	三輪　茂	大垣市民病院
総合診療科	井村 洋	飯塚病院
総合診療科	小田 浩之	飯塚病院
総合診療科	中村 権一	飯塚病院
総合診療科	松永 諭	飯塚病院
総合診療科	山口 裕崇	飯塚病院
総合診療科	工藤 仁隆	飯塚病院
総合診療科	鵜木 友都	飯塚病院
循環器内科	西 淳一郎	飯塚病院
循環器内科	稲永 慶太	飯塚病院
循環器内科	田中 敬士	飯塚病院
循環器内科	髙原 勇介	飯塚病院
消化器内科	赤星 和也	飯塚病院
消化器内科	長田 繁樹	飯塚病院
消化器内科	宜保 淳也	飯塚病院
消化器内科	久保川 賢	飯塚病院
消化器内科	淀江 賢太郎	飯塚病院
消化器内科	小副川 敬	飯塚病院
呼吸器内科	野 和則	飯塚病院
呼吸器内科	井手 ひろみ	飯塚病院
呼吸器内科	山元 隆太	飯塚病院
漢方診療科	井上 博喜	飯塚病院
漢方診療科	矢野 博美	飯塚病院
漢方診療科	吉永 亮	飯塚病院
肝臓内科	田中 紘介	飯塚病院
肝臓内科	本村 健太	飯塚病院
連携医療・緩和ケア科	柏木 秀行	飯塚病院
連携医療・緩和ケア科	石上 雄一郎	飯塚病院
集中治療科	吉野 俊平	飯塚病院

診療科	氏名	所属施設
集中治療科	桑野 公輔	飯塚病院
腎臓内科	藤﨑 毅一郎	飯塚病院
リハビリテーション科	松本 弥一郎	飯塚病院
脳神経内科	高瀬 敬一郎	飯塚病院
血液内科	白土 基明	飯塚病院
血液内科	喜安 純一	飯塚病院
膠原病･リウマチ内科	内野 愛弓	飯塚病院
血液内科	小林 裕	京都第二赤十字病院
血液内科	魚嶋 伸彦	京都第二赤十字病院
血液内科	上辻 由里	京都第二赤十字病院
血液内科	堤 康彦	京都第二赤十字病院
血液内科	佐々木 奈々	京都第二赤十字病院
第１糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科	山﨑　真裕	京都第二赤十字病院
第１糖尿病内分泌・腎臓・膠原病内科	茎田　祐司	京都第二赤十字病院
脳神経内科	永金　義成	京都第二赤十字病院
脳神経内科	徳田　直輝	京都第二赤十字病院
脳神経内科	井上　史織	京都第二赤十字病院
脳神経内科	神鳥　恵子	京都第二赤十字病院
脳神経内科	山本　敦史	京都第二赤十字病院
脳神経内科	松浦　啓	京都第二赤十字病院
呼吸器内科	竹田 隆之	京都第二赤十字病院
呼吸器内科	吉村 彰紘	京都第二赤十字病院
消化器内科	宇野　耕治	京都第二赤十字病院
消化器内科	萬代 晃一朗	京都第二赤十字病院
消化器内科	河村　卓二	京都第二赤十字病院
緩和ケア科	真田　香澄	京都第二赤十字病院
検査部	井上　啓司	京都第二赤十字病院
循環器内科	椿本　恵則	京都第二赤十字病院
第２救急科	成宮　博理	京都第二赤十字病院
感染制御部	盛田　篤広	京都第二赤十字病院
脳神経内科	山本 大介	湘南鎌倉総合病院
救急･総合診療科	村田 研吾	東京都立多摩総合医療センター
救急･総合診療科	保浦 修裕	東京都立多摩総合医療センター
救急･総合診療科	竹内 結	東京都立多摩総合医療センター
救命･集中治療科	光銭 大裕	東京都立多摩総合医療センター
救命･集中治療科	堀越 佑一	東京都立多摩総合医療センター
腎臓内科	羽田 学	東京都立多摩総合医療センター
腎臓内科	紀平 裕美	東京都立多摩総合医療センター
腎臓内科	土岐 徳義	東京都立多摩総合医療センター

診療科	氏名	所属施設
消化器内科	並木　伸	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	吉永　繁高	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	井上　大	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	下地　耕平	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	中園　綾乃	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	三浦　夏希	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	村野　竜朗	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	山城　雄也	東京都立多摩総合医療センター
消化器内科	横田　拓也	東京都立多摩総合医療センター
内分泌代謝内科	辻野　元祥	東京都立多摩総合医療センター
内分泌代謝内科	佐藤　文紀	東京都立多摩総合医療センター
内分泌代謝内科	櫻田　麻耶	東京都立多摩総合医療センター
内分泌代謝内科	川崎　元樹	東京都立多摩総合医療センター
神経･脳血管内科	上田　雅之	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	髙森　幹雄	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	和田　暁彦	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	北園　美弥子	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	小林　健	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	松田　周一	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	木庭　太郎	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	山本　美暁	東京都立多摩総合医療センター
循環器内科	加藤　賢	東京都立多摩総合医療センター
循環器内科	三ツ橋　佑哉	東京都立多摩総合医療センター
循環器内科	磯貝　俊明	東京都立多摩総合医療センター
循環器内科	宮部　倫典	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	島田　浩太	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	横川　直人	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	永井　佳樹	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	高增　英輔	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	大西　香絵	東京都立多摩総合医療センター
リウマチ膠原病科	上田　佳孝	東京都立多摩総合医療センター
血液内科	岩間　幹一	東京都立多摩総合医療センター
血液内科	塚田　端夫	東京都立多摩総合医療センター
血液内科	松井　茉里奈	東京都立多摩総合医療センター
血液内科	篠田　大輔	東京都立多摩総合医療センター
感染症科	織田　錬太郎	東京都立多摩総合医療センター
呼吸器内科	本田　芳宏	仙台厚生病院
呼吸器内科	菅原　俊一	仙台厚生病院
呼吸器内科	木村　雄一郎	仙台厚生病院
循環器内科	田中　綾紀子	仙台厚生病院
呼吸器内科	濱本　英剛	仙台厚生病院

診療科	氏名	所属施設
呼吸器内科	戸井　之裕	仙台厚生病院
呼吸器内科	相羽　智生	仙台厚生病院
循環器内科	本多　卓	仙台厚生病院
循環器内科	多田　憲生	仙台厚生病院
循環器内科	伊澤　毅	仙台厚生病院
循環器内科	本田　晋太郎	仙台厚生病院
呼吸器内科	名和田　義高	仙台厚生病院
肝臓内科	林　倫留	仙台厚生病院
呼吸器内科	矢満田　慎介	仙台厚生病院
消化器内科	松田　知己	仙台厚生病院
循環器内科	堀江　和紀	仙台厚生病院
消化器内科	五十嵐　公洋	仙台厚生病院
消化器内科	田中　由佳里	仙台厚生病院
呼吸器内科	川名　祥子	仙台厚生病院
アレルギー膠原病科	岡田正人	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	田巻弘道	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	小澤廣記	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	川合聡史	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	中井健宏	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	池田行彦	聖路加国際病院
アレルギー膠原病科	柳岡治先	聖路加国際病院
感染症科	森信好	聖路加国際病院
呼吸器内科	北村淳史	聖路加国際病院
呼吸器内科	仁多寅彦	聖路加国際病院
呼吸器内科	盧昌聖	聖路加国際病院
呼吸器内科	今井亮介	聖路加国際病院
呼吸器内科	冨島裕	聖路加国際病院
呼吸器内科	岡藤浩平	聖路加国際病院
循環器内科	青木二郎	聖路加国際病院
循環器内科	中里良	聖路加国際病院
循環器内科	水野篤	聖路加国際病院
循環器内科	小宮山伸之	聖路加国際病院
循環器内科	宮田宏太郎	聖路加国際病院
循環器内科	浅野拓	聖路加国際病院
循環器内科	椎名由美	聖路加国際病院
循環器内科	蟹江崇芳	聖路加国際病院
内分泌代謝科	丘　美恵	聖路加国際病院
内分泌代謝科	能登　洋	聖路加国際病院
循環器内科	西畑庸介	聖路加国際病院
循環器内科	新沼廣幸	聖路加国際病院
循環器内科	増田慶太	聖路加国際病院

診療科	氏名	所属施設
循環器内科	高岡慶光	聖路加国際病院
循環器内科	齊藤輝	聖路加国際病院
循環器内科	大野雅文	聖路加国際病院
総合診療科	柳井敦	聖路加国際病院
総合診療科	有岡宏子	聖路加国際病院
総合診療科	秋山由里香	聖路加国際病院
腎臓内科	瀧史香	聖路加国際病院
腎臓内科	長浜正彦	聖路加国際病院
腎臓内科	鈴木倫子	聖路加国際病院
緩和ケア科	長美鈴	聖路加国際病院
緩和ケア科	普久原智里	聖路加国際病院
血液内科	小山田亮祐	聖路加国際病院
血液内科	伊藤礼子	聖路加国際病院
腫瘍内科	扇田信	聖路加国際病院
集中治療科	石井賢二	聖路加国際病院
消化器内科	福田勝之	聖路加国際病院
消化器内科	髙木浩一	聖路加国際病院
心療内科	山田宇以	聖路加国際病院
心療内科	種本陽子	聖路加国際病院
神経内科	宇那木 晶彦	聖路加国際病院
神経内科	近藤円香	聖路加国際病院
臨床検査科	千葉　優子	東京都健康長寿医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科	田村　嘉章	東京都健康長寿医療センター
脳神経内科	仁科　裕史	東京都健康長寿医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科	荒木　厚	東京都健康長寿医療センター
総合内科	岩切　理歌	東京都健康長寿医療センター
リハビリテーション科	加藤　貴行	東京都健康長寿医療センター
循環器内科	原田　和昌	東京都健康長寿医療センター
血液内科	宮腰　重三郎	東京都健康長寿医療センター
救急診療部	坪光　雄介	東京都健康長寿医療センター
循環器内科	鳥羽　梓弓	東京都健康長寿医療センター
循環器内科	藤本　肇	東京都健康長寿医療センター
循環器内科	石山　泰三	東京都健康長寿医療センター
呼吸器内科	山本　寛	東京都健康長寿医療センター
脳神経内科	東原　真奈	東京都健康長寿医療センター
呼吸器内科	山田　浩和	東京都健康長寿医療センター
循環器内科	石川　譲治	東京都健康長寿医療センター
血液内科	小倉　和外	東京都健康長寿医療センター
総合内科	大川　庭熙	東京都健康長寿医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科	小寺　玲美	東京都健康長寿医療センター
血液透析科	板橋　美津世	東京都健康長寿医療センター

診療科	氏名	所属施設
腎臓内科	武井　卓	東京都健康長寿医療センター
輸血・細胞療法科	小林　寿美子	東京都健康長寿医療センター
感染症内科	小金丸　博	東京都健康長寿医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科	大庭　和人	東京都健康長寿医療センター
糖尿病・代謝・内分泌内科	豊島　堅志	東京都健康長寿医療センター
脳神経内科	岩田　淳	東京都健康長寿医療センター
消化器・内視鏡内科	小野　敏嗣	東京都健康長寿医療センター
内科	三枝　智宏	佐久間病院

別表１　聖隷浜松病院内科専門研修における
「疾患群」・「症例数」・「病歴要約提出数」の各年次到達目標について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	※5 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		3※1
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		2
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計※5		70疾患群	56疾患群（任意選択含む）	45疾患群（任意選択含む）	20疾患群	29症例（外来は最大7）※3
症例数※5		200以上（外来は最大20）	160以上（外来は最大16）	120以上	60以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて，「消化管」，「肝臓」，「胆・膵」が含まれること．

※2 専攻医 3 年次の修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが，他に異なる 15 疾患群の経験を加えて，合計 56 疾患群以上の経験とする．

※3 外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める．（全て異なる疾患群での提出が必要）

※4「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する．
例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例，「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5 初期臨床研修時の症例は，例外的に各専攻医プログラムの委員会が認める内容に限り，その登録が認められる．

別表 2　聖隷浜松病院内科専門研修　週間スケジュール（例：総合診療内科）

<table>
<tr><th></th><th>月曜日</th><th>火曜日</th><th>水曜日</th><th>木曜日</th><th>金曜日</th><th>土曜日</th><th>日曜日</th></tr>
<tr><td rowspan="2">午前</td><td></td><td>抄読会</td><td colspan="2">Web カンファレンス</td><td></td><td rowspan="5">・拘束担当医の場合：病棟患者診療など
・講習会
・学会参加
・日当直</td><td rowspan="5"></td></tr>
<tr><td colspan="5">総合診療内科　朝カンファレンス</td></tr>
<tr><td>午前</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>入院患者診療</td><td>外来患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="3">午後</td><td rowspan="3">入院患者診療</td><td>臨床検査</td><td>入院患者診療</td><td>外来患者診療</td><td>入院患者診療</td></tr>
<tr><td rowspan="2">時間外
外来患者診療</td><td>内科救急合同カンファレンス</td><td>病棟多職種カンファレンス</td><td>総合診療内科カンファレンス</td></tr>
<tr><td>EBM カンファレンス</td><td>医療英語</td><td>CPC</td></tr>
<tr><td>夜</td><td colspan="5">担当患者の病態に応じた診療/オンコール/当直など</td></tr>
</table>

★ 聖隷浜松病院内科専門研修プログラム

4.専門知識・専門技能の習得計画（P.7）に従い，内科専門研修を実践します.

・ 上記はあくまでも例：概略です.

・ 診療科毎にカンファレンスの時間や担当する外来・入院診療の曜日，時間帯は調整・変更されます.

・ 入院患者診療には，各診療科の入院患者の診療を含みます.

・ 外来患者診療は，一般内科外来でプログラム開始時に日程を決めます．ローテートする診療科との時間的な調整が必要な場合には日程の変更を考慮することがあります.

・ 日当直は，1 年次については循環器科・神経内科では各科のサブスペシャルティの副当直，それ以外の診療科では当院の内科の副当直として診療します．3 年次については，循環器科・神経内科では各科のサブスペシャルティの副当直，それ以外の診療科では当院の内科の主当直として担当します.

・ CPC は毎月第 3 金曜日，地域参加型カンファレンス，講習会，学会などは各々の開催日に参加します.